

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	対人関係の心理学 (Interpersonal Psychology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	牧 裕夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： アサーション・トレーニングとバイアスは今日の心理学各領域との関連が報告されている。また、それぞれ日常での対人関係において実践的な方法論を有している。関係性の知はそもそも日常の場面の健康的な側面への追求として実践的な知を提供している。心理学のエッセンスから日常での実践的な人間関係への知の獲得を目指す。									
授業目標： 心理学の専門家に限った技法というより、様々な立場にある者によるコミュニティでの実践的な対人関係への対処法を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	授業の進め方・内容に関するガイダンス				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
2	アサーション・トレーニング（その方法と理論）				事前：人権問題の例を探索 事後：自身のアサーションの在り方			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
3	アサーション・トレーニング（Iメッセージ他）				事前：資料から興味ある点のまとめ 事後：乳幼児期での体験と今日の対話			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
4	アサーション・トレーニング（DESC法の展開）				事前：解決・調整を求められた場面 事後：「事前」での場面での取り組み			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
5	アサーション・トレーニング（怒りへの対処）				事前：日々の怒りを振り返る 事後：「事前」例からの振り返り			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
6	バイアスの心理学（その対人関係との関連）				事前：資料から関心ある内容をチェック 事後：授業内容から日常での気づき			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
7	バイアスの心理学（集団場面との関連）				事前：集団ならではの行動を探索 事後：授業内容から日常での気づき			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
8	気持ちを分かちもつ（C.R.ロジャーズの共感等から・ロジャーズの生い立ちとの自己一致）				事前：ネガティブな相手の思いの受止め 事後：自身の生い立ちとの対比			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
9	気持ちを分かちもつ（C.R.ロジャーズの共感等から・非指示的・来談者中心等から理解）				事前：ネガティブ虫君は出て行かない 事後：ロジャーズからの展開			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
10	認知行動療法からの関係性（バンチュエラの心理学の意義）				事前：モデリングと観察学習の展開 事後：日常での体験から理解			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
11	認知行動療法からの関係性（A.エリスの論理療法）				事前：同じ場面でも違った体験な人生 事後：錯視、生きるヒントがそこにある			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
12	認知療法からの関係性（A.ベックの論理療法）				事前：抑うつつの肯定的な体験を発見 事後：ベックのコラム法から日々の体験			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
13	行動療法の第三世代の展開（マインドフルネスでの展開）				事前：第一世代と第二世代の振り返り 事後：第三世代での日常の振り返り			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
14	行動療法の第三世代の展開（ACTの理論とその展開）				事前：ショック体験を振り返る 事後：グリーンアップル歌詞で復習			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
15	まとめ				事前：利用できそうな内容を振り返る。 事後：ノートの整理・復習			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
教本： 授業者から適宜提供したい。					参考文献： 参加者の関心に応じて適宜情報提供したい。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、レポート等（30%）、期末試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 将来の進路との関係から関心を持てることを期待したい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	多 変 量 解 析 法 入 門 (Introduction to Multivariate Statistical Analysis)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 学 統 計 法、心 理 学 研 究 法、社 会 調 査 法、社 会 心 理 学 実 験 演 習 等、基 礎 的 な 統 計 学、研 究 法 を 履 修 済 み で あ る こ と							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
統 計 解 析 に お い て 多 変 量 解 析 法 が 用 い ら れ る こ と は 多 く、多 変 量 解 析 法 に よ る 分 析 の 結 果 を 読 み こ な せ る よ う に な る こ と に よ り、客 観 的 記 述 を 正 確 に 理 解 す る こ と が 可 能 な る よ う に な る だ ろ う。本 授 業 で は、多 変 量 解 析 法 と し て、因 子 分 析、二 元 配 置 の 分 散 分 析、重 回 帰 分 析 / パ ス 解 析 を 取 り 上 げ る。前 半 で は 多 変 量 解 析 を 用 い た 論 文 の 読 み 方 を 学 ん だ 上 で 分 析 の 実 際 を 体 験 す る。そ し て 後 半 で は、自 分 た ち が 立 て た 問 題 に 基 づ く 調 査 を 実 施 し て、デ ー タ を 分 析 し、結 果 を ま と め、発 表 し、レ ポ ー ト に ま と め る と い っ た 一 連 の 研 究 の プ ロ セ ス を 体 験 す る。									
授 業 目 標 :									
多 変 量 解 析 を 用 い た 論 文 を 読 ん で 理 解 可 能 な る よ う に な る。 自 分 の 研 究 (卒 業 論 文 等) で 多 変 量 解 析 を 用 い る こ と が 可 能 な る よ う に な る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン、デ ー タ 解 析 の 基 礎				事 前 : 学 習 済 み の デ ー タ 解 析 法 に つ い て 復 習 し て お く 事 後 : デ ー タ 解 析 法 の 復 習			講 義	
2	多 変 量 解 析 と は				事 前 : 事 後 : 多 変 量 解 析 を 用 い た 原 著 論 文 を 検 索 す る			講 義	
3	因 子 分 析 を 用 い た 論 文 を 読 む				事 前 : 因 子 分 析 を 用 い た 論 文 を 持 参 す る 事 後 : 因 子 分 析 を 用 い た 論 文 を 読 む			講 義	
4	因 子 分 析 演 習				事 前 : 因 子 分 析 に つ い て 復 習 し て お く 事 後 : 因 子 分 析 を や っ て み る			講 義 40 分、演 習 50 分	
5	二 元 配 置 の 分 散 分 析 を 用 い た 論 文 を 読 む				事 前 : 二 元 配 置 の 分 散 分 析 を 用 い た 論 文 を 持 参 す る 事 後 : 二 元 配 置 の 分 散 分 析 を 用 い た 論 文 を 読 む			講 義	
6	二 元 配 置 の 分 散 分 析 演 習				事 前 : 二 元 配 置 の 分 散 分 析 に つ い て 復 習 し て お く 事 後 : 二 元 配 置 の 分 散 分 析 を や っ て み る			講 義 40 分、演 習 50 分	
7	重 回 帰 分 析 / パ ス 解 析 を 用 い た 論 文 を 読 む				事 前 : 重 回 帰 分 析 / パ ス 解 析 を 用 い た 論 文 を 持 参 す る 事 後 : 重 回 帰 分 析 / パ ス 解 析 を 用 い た 論 文 を 読 む			講 義	
8	重 回 帰 分 析 演 習				事 前 : 重 回 帰 分 析 / パ ス 解 析 に つ い て 復 習 し て お く 事 後 : 重 回 帰 分 析 を や っ て み る			講 義 40 分、演 習 50 分	
9	多 変 量 解 析 を 用 い た 研 究 の 体 験 : 研 究 デ ザ イ ン の 立 案				事 前 : 研 究 デ ザ イ ン を 考 え る 事 後 : 調 査 紙 を 作 成 す る			講 義 20 分、 グ ル ー プ ワ ー ク 70 分	
10	多 変 量 解 析 を 用 い た 研 究 の 体 験 : 調 査 の 実 施				事 前 : 調 査 紙 を 準 備 す る 事 後 : 調 査 を 実 施 す る			講 義 20 分、 グ ル ー プ ワ ー ク 70 分	
11	多 変 量 解 析 を 用 い た 研 究 の 体 験 : デ ー タ 解 析				事 前 : 回 答 済 み 調 査 紙 を 回 収 す る 事 後 : デ ー タ 解 析 す る			講 義 20 分、 グ ル ー プ ワ ー ク 70 分	
12	多 変 量 解 析 を 用 い た 研 究 の 体 験 : 解 析 結 果 の 解 釈				事 前 : 解 析 結 果 を 解 釈 し て み る 事 後 : 解 析 結 果 を 解 釈 す る			講 義 20 分、 グ ル ー プ ワ ー ク 70 分	
13	多 変 量 解 析 を 用 い た 研 究 の 体 験 : 結 果 発 表 資 料 の 作 成				事 前 : 研 究 の 流 れ を 振 り 返 る 事 後 : 発 表 資 料 を 作 成 す る			講 義 20 分、 グ ル ー プ ワ ー ク 70 分	
14	多 変 量 解 析 を 用 い た 研 究 の 体 験 : 研 究 発 表 会				事 前 : 発 表 準 備 事 後 : 各 発 表 内 容 に つ い て 考 察 す る			発 表 30 分、討 議 60 分	
15	ま と め、レ ポ ー ト の 書 き 方				事 前 : 多 変 量 解 析 に つ い て 復 習 す る 事 後 : 研 究 結 果 を レ ポ ー ト に ま と め る			講 義 40 分、演 習 50 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
指 定 し な い					授 業 中 に 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、レ ポ ー ト ・ テ ス ト (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 に は、グ ル ー プ ワ ー ク、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 等 を 取 り 入 れ る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 授 業 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 観 光 論 I (Regional Tourism I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>“観光とは、場所（地域）や時間に関わる制約の少ない、人と環境（地域）の任意の関係である”（Walmsley & Jenkins, 1993）という見解が示す通り、「地域（環境）」と「人間」の相互依存関係は観光学の基幹的テーマの一つである。したがって、当該講義は「地域」を組上に載せ、「人間（需要サイド及び供給サイド）」と「地域環境（居住環境及び目的地環境）」の相互浸透関係を論じ、観光学における「地域」の様々な様相を明らかにする。同時に、観光学における多様な研究領域の基本的枠組みを具体的に説明し、今後の学修に有用な知識の獲得を目指す。また、当該講義は「1年次開講」のため、観光系講義の「原論的位置付」にて分かり易く講義を進める。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>① 観光学領域での「地域」の意義を理解する ② 人間・環境系における「地域」の意味を観光学の観点から理解する</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			講義80分、 小レポート10分	
2	地域学と観光学（学問領域の差異とその特質）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
3	地域情報と観光学（地域の認知と情報）				事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
4	地域と観光客 [観光客とは]				事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
5	地域と観光の枠組み [枠組みの複雑性]				事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
6	居住環境と目的地環境の相克 [需要サイドも検討する必要性]				事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
7	地域資源と観光商品 [地域観光商品に何だろう]				事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
8	地域観光商品の特質 [地域学からのアプローチ]				事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
9	地域観光商品の分類（中核商品・支援商品、付加的商品等） [地域内の複雑な様相]				事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
10	観光目的地の魅力特性(attraction)の概略 [地域の魅力って何]				事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
11	地域の魅力特性(attraction)の記述				事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
12	地域の魅力特性(attraction)の分析の実際				事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
13	目的地内のフロントリージョンおよびバックリージョンの構造 (MacCannell(1973), Goffman(1959))				事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
14	フロントリージョンおよびバックリージョンの事例研究 (沖縄県那覇市国際通り周辺の研究事例)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
15	まとめ				事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
指定しない					適時指定する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (10%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
1 年 次 学 生 に も 分 かり や す く 講 義 を 進 め る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論Ⅱ (Regional Tourism Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>“観光とは、場所（地域）や時間に関わる制約の少ない、人と環境（地域）の任意の関係である”（Walmsley & Jenkins, 1993）という見解が示す通り、「地域（環境）」と「人間」の相互依存関係は観光学の基幹的テーマの一つである。したがって、当該講義は「地域」を組上に載せ、「人間（需要サイド及び供給サイド）」と「地域環境（居住環境及び目的地環境）」の相互浸透関係を論じ、観光学における「地域」の様々な側面を明らかにする。同時に、観光学における多様な研究領域の基本的枠組みを具体的に説明し、今後の学修に有用な知識の獲得を目指す。また、当該講義は「1年次開講」のため、観光系講義の「原論的位置付」にて分かり易く講義を進める。地域観光論Ⅱにおいては、「地域・観光の持続可能性」を軸に論を進めていく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①観光学領域での「地域」の意義を理解する ②人間・環境系における「地域」の意味を観光学の観点から理解する</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション			事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			講義80分、 小レポート10分		
2	「地域」と「環境」 [環境とは]			事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
3	地域・観光の持続可能性の概念			事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
4	地域的環境と「キャリングキャパシティー」			事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
5	地域のステークホルダーと持続可能性			事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
6	地域観光に対する「環境保全型観光商品」の概念と分類			事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
7	観光目的地の変遷（バトラーのモデルを通して）			事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
8	観光目的地の変遷と地域環境・観光産業の動態			事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
9	観光目的地の変遷の事例分析とその発展的視点			事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
10	地域環境の診断システムの必要性			事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
11	地域環境保全のための指標システム			事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
12	地域環境保全のための指標システムの実例（英国の事例）			事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
13	比較環境学における都市・地域環境要素の分析			事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
14	環境要素の地域的差異と観光行動（国内および日英の比較分析）			事前：次回の予習 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
15	まとめ			事前：シラバスを読む 事後：ノートを整理する			前回の復習10分講義70分、 小レポート10分		
教本： 指定しない				参考文献： 適時指定する					
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 1年次学生にも分かりやすく講義を進めていきます。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域振興論 I (Regional Promotion I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の現状とその内容を概説する。最初に、地域振興の基本的課題である産業振興（観光振興を含む）・コミュニティの育成・地域資源のブランド化などを、基幹的計画である国土計画・都市計画を俯瞰しながら論ずる。そして、地域環境のデータ分析を行い、今後の持続可能な地域振興・観光振興の在り方を検討する。また、近年の観光振興の新しい流れをこれらの観点から説明する。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： ①地域振興の概念・歴史等を理解する。②都市計画の概念と地域振興との関係性において理解する。③地域振興と観光振興の関係性を理解する。④地域環境を地方自治体の規模別に俯瞰し、今後の地域振興・観光振興の在り方を考察する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習			講義90分	
2	地域振興の意味と定義				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	都市計画・地域振興・観光振興 （ハード的・ソフト的という軸における関係性）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
4	都市計画の歴史 （都市という居住空間の計画史と地域振興）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	わが国の都市計画 （原理と基本的タームの理解）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	国土計画と観光振興（1） （全国総合開発計画の歴史的変遷）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
7	国土計画と観光振興（2） （観光振興と全国総合開発計画）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
8	地域振興とコミュニティ （コミュニティの歴史と現状と地域振興）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
9	地域振興と地域環境：人口規模別データの分析（地域の人口・産業振興・福祉・行政・医療等）：データの読み方				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	地域振興と地域環境：人口規模別データの分析：データの分析から見られる地域振興（政策）の特性と今後の課題				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
11	地域振興と地域環境：人口規模別データの分析：観光振興の観点からの分析と今後の観光政策の課題				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
12	地域振興と観光振興（1） （その複合的側面：事例の提示を通して [国内]）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
13	地域振興と観光振興（2） （それらの複合的側面：事例の提示を通して [海外]）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
14	DMO (Destination management organization) 等の新しい観光振興の在り方の妥当性の分析と今後の課題				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	まとめ				事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習			前回の確認10分、講義80分	
教本： 毎回資料を配布する。					参考文献： 適時教示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 地域振興の基底にある「国土計画や都市計画」を考えながら「観光振興の在り方」を考えること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 振 興 論 II (Regional Promotion II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
わが国の地域振興の成立ちと内容を観光振興の観点から概説する。本講義の目的は、観光振興を推進する上で必要な計画、調査等における基礎的知識を修得することにある。近年、地域・都市を観光対象とするツーリズムが拡大し、そのマーケティング的対応が急務となっている。それ故、「都市・地域の魅力特性(attraction)」の分析を通し基礎的知識と分析方法を習得することは有用と考えられる。また、「魅力特性」の分析手法は、持続可能観光など新しいタイプのツーリズムの分析にも重要と思われる。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授 業 目 標 :									
① 観光による地域振興の現状・意義・役割を修得する。									
② テーマ別・地域・形態別の観光振興の手法について修得する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	地域振興と観光振興(1) (成立ちと両者の差異)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	地域振興と観光振興(2) (観光学の枠組の視点から見た両者の関係性)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
4	地域振興と観光まちづくり(1)：その概念と内容					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	地域振興と観光まちづくり(2)：その課題(類似性と異質性)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	新しいタイプの地域を観光対象とした観光形態の現代的意味：その分類と特徴					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
7	地域・都市を観光対象とする観光商品(1)：その概念と構造(Smith(1994))を中心に					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
8	地域・都市を観光対象とする観光商品(2)：その分析方法の枠組					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
9	地域・都市を観光対象とする観光商品(3)：ワークシートの作成(中核・支援・付加的商品)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	地域・都市を対象とした観光商品の魅力特性(attraction)：その特性・分析方法					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
11	地域・都市を対象とした観光商品の魅力特性(attraction)：魅力特性の分析方法とその事例(Lew(1987)の三つの視点)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
12	地域・都市を対象とした観光商品の魅力特性(attraction)：魅力特性の分析の観光振興への援用(SWOT分析等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
13	持続可能観光等、新しいツーリズムの形態への応用と今後の課題					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
14	「地域振興」と「観光振興」の現在：融合と相克をめぐる					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	まとめ					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
毎回資料を配布する。					適時指定する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平常点(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
地域振興と観光振興の方法や事例を紹介する。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 史 I (Cultural History of Areas I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 宰								
履 修 条 件	前 提 科 目	文 化 人 類 学 な だ の 文 化 学							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 東 ア ジ ア , と り わ け 日 本 の 文 化 を 歴 史 的 な 視 点 か ら 捉 え な お す こ と が , 本 講 義 の 目 的 に な る 。									
授 業 目 標 : 教 科 書 的 歴 史 だ け で は な い 歴 史 を 知 る こ と 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	地 域 と は 何 か , 地 域 文 化 と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
2	社 会 構 造 と い う 考 え 方					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
3	歴 史 と 構 造					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
4	日 本 の 地 域 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
5	日 本 の 地 域 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
6	沖 縄 ・ 宮 古 の 地 域 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
7	沖 縄 ・ 宮 古 の 地 域 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
8	琉 球 文 化 と 地 域 性					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
9	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 新 宿					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
10	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 新 宿 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
11	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 新 宿 3					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
12	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 渋 谷					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
13	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 渋 谷 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
14	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 渋 谷 3					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義 90 分	
15	試 験 あ る い は レ ポ ー ト					事 前 : ノ ー ト 整 理 事 後 :		試 験 あ る い は レ ポ ー ト	
教 本 : な し					参 考 文 献 : 授 業 中 に た く さ ん 紹 介 し ま す 。				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 : 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : わ か ら な い こ と が あ っ て も , あ き ら め な い こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化史Ⅱ (Cultural History of Areas Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学などの文化学							
	その他	なし							
授業概要： 前期の地域文化史Ⅰをベースに、範囲を拡大し、東南アジアまでを視野に入れていく。									
授業目標： 異なる文化とどのように関係を創り上げていくのかに関して、自分の視点を持つ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	地域文化史Ⅰの復習					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
2	東南アジアの地域性					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
3	大陸の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
4	大陸の文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
5	大陸の文化3					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
6	島嶼部の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
7	島嶼部の文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
8	島嶼部の文化3					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
9	異文化接触と地域文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
10	異文化接触と地域文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
11	地域文化と政策					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
12	地域文化と政策2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
13	地域文化と政策3					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
14	地域と歴史					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
15	試験あるいはレポート					事前：ノート整理 事後：		試験あるいはレポート	
教本： なし					参考文献： 授業中にたくさん紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 複雑なことから逃げないように。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 (Regional Cultures)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 克								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
多様な地域文化の捉え方を理解し、様々な地域文化の構成要素である文化資源の保存と活用事例を学んでいく。その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等を理解する。実際に皆さんが住む地域の文化資源をどのようにリストアップするか学び、活用方法を自分たちで考える。地域文化の保護と活用、活性化の手段について学ぶ。									
授 業 目 標 :									
地域文化の発見とその発信について基礎的な方法を身につける。 地域文化の多様性を学び、ベースとなる文化資源を掘り起こし活性化させる事で、観光資源としても有効であることを理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。地域文化論を学ぶことの意義				事前：地域、文化の意味を調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 アンケート(20分)	
2	地域、文化の捉え方。地域文化の構成要素である伝統文化、歴史、民俗、景観等と文化資源について				事前：地域文化とは何か、自分で考える 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
3	国、地方自治体の地域文化活性化の方針と政策。景観法や文化財保護法の重伝建築地区、文化的景観等				事前：居住する自治体のHPを検索する 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
4	地域文化の保存と活性化① 重要伝統的建造物群と文化的景観について				事前：授業タイトルの用語を調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
5	地域文化の保存と活性化② 文化芸術振興基本法と地方自治体の取り組み				事前：文化芸術振興法について調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
6	地域の文化資源の発見とリスト化① それぞれの住む地域での文化資源の発見とリスト化の方法を学ぶ				事前：自分の住む地域の広報物を収集 事後：発表のための調査と資料作成			講義(50分)、 演習(40分)	
7	地域文化の保存と活性化③ 都市の地域文化と創造都市論による街おこし				事前：創造都市論とは何か調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
8	様々な地域文化① 日本の地域文化 山村、漁村 特に伊豆諸島の伝統文化について				事前：伊豆諸島の位置と現状を検索 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
9	様々な地域文化② 世界の地域文化と対比してみる。生活文化。各地の事例・オランダ、台湾等				事前：オランダと台湾について検索する。 事後：配布資料の内容確認			演習(90分)	
10	地域における博物館を利用した様々な文化資源の活用 遺跡、史跡、名勝。人、組織				事前：居住地等の博物館のHPを調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(30分)、 ディスカッション(60分)	
11	地域文化の情報発信。広報活動など、情報発信の具体的な方法を学び、その必要性について理解する				事前：広報と広告の違いを調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
12	学生による発表とディスカッション①				事前：資料作成、発表準備 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
13	学生による発表とディスカッション②				事前：資料作成、発表準備 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 小レポート作成(20分)	
14	授業全体の課題を確認し、授業内でレポートを作成。				事前：全授業の資料を集めて目を通す。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。				事前：授業全体を振り返る。 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、 ディスカッション(45分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。					その都度提示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。住んでいる地域の伝統文化とは何か、興味を持ってください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 (Regional Cultures)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。</p> <p>2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇地域文化論の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3~9精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史~中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236~242精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化~文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11~16精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16~19精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ① コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 と 寛 容 性 の 理 解 を 深 め る 。					事前：教本 pp.19~24精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ② 想 像 / 創 造 す る 力 の 可 能 性 を と も に 考 え る 。					事前：教本 pp.24~31精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	言 語 ① 英 語 帝 国 主 義 ~ 日 本 人 は な ぜ 英 語 が 話 せ な い の か 。					事前：教本 pp.108~117精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	言 語 ② 国 家 と 標 準 語 ・ 方 言 と の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.117~134精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	非 言 語 ① 非 言 語 メ ッ セ ー ジ と ス テ レ オ タ イ プ の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.135~144精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	非 言 語 ② 沈 黙 の 意 味 ~ 日 本 人 と 以 心 伝 心 と の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.144~152精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	時 間 ・ 空 間 - 記 憶 と 忘 却 と の 関 係 性 に つ い て、東 日 本 大 震 災 を 基 に 議 論 を 深 め る 。					事前：教本 pp.152~157精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
13	発 展 学 習 ① 生 物 多 様 性 と 文 化 と の か か わ り を 考 え る 。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
14	発 展 学 習 ② 建 築 と 文 化 と の か か わ り を 考 え る 。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
15	ま と め ・ 地 域 文 化 論 の 内 容 を 総 括 し、議 論 を 深 め る 。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石 井 敏 博 氏 『 は じ め て 学 ぶ 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン - 多 文 化 共 生 と 平 和 構 築 に 向 け て 』 有 斐 閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 中 に 課 す 小 レ ポ ー ト (40%)、及 び 期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 I (Regional Cultures I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 克								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
多様な地域文化の捉え方を理解し、様々な地域文化の構成要素である文化資源の保存と活用事例を学んでいく。その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等を理解する。実際に皆さんが住む地域の文化資源をどのようにリストアップするか学び、活用方法を自分たちで考える。地域文化の保護と活用、活性化の手段について学ぶ。									
授 業 目 標 :									
地域文化の発見とその発信について基礎的な方法を身につける。 地域文化の多様性を学び、ベースとなる文化資源を掘り起こし活性化させる事で、観光資源としても有効であることを理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。地域文化論を学ぶことの意義				事前：地域、文化の意味を調べる 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 アンケート(20分)		
2	地域、文化の捉え方。地域文化の構成要素である伝統文化、歴史、民俗、景観等と文化資源について				事前：地域文化とは何か、自分で考える 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)		
3	国、地方自治体の地域文化活性化の方針と政策。景観法や文化財保護法の重伝建築地区、文化的景観等				事前：居住する自治体のHPを検索する 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)		
4	地域文化の保存と活性化① 重要伝統的建造物群と文化的景観について				事前：授業タイトルの用語を調べる 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)		
5	地域文化の保存と活性化② 文化芸術振興基本法と地方自治体の取り組み				事前：文化芸術振興法について調べる 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)		
6	地域の文化資源の発見とリスト化① それぞれの住む地域での文化資源の発見とリスト化の方法を学ぶ				事前：自分の住む地域の広報物を収集 事後：発表のための調査と資料作成		講義(50分)、 演習(40分)		
7	地域文化の保存と活性化③ 都市の地域文化と創造都市論による街おこし				事前：創造都市論とは何か調べる 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)		
8	様々な地域文化① 日本の地域文化 山村、漁村 特に伊豆諸島の伝統文化について				事前：伊豆諸島の位置と現状を検索 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)		
9	様々な地域文化② 世界の地域文化と対比してみる。生活文化。各地の事例・オランダ、台湾等				事前：オランダと台湾について検索する。 事後：配布資料の内容確認		演習(90分)		
10	地域における博物館を利用した様々な文化資源の活用 遺跡、史跡、名勝。人、組織				事前：居住地等の博物館のHPを調べる 事後：配布資料の内容確認		講義(30分)、 ディスカッション(60分)、		
11	地域文化の情報発信。広報活動など、情報発信の具体的な方法を学び、その必要性について理解する				事前：広報と広告の違いを調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)		
12	学生による発表とディスカッション①				事前：資料作成、発表準備 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)		
13	学生による発表とディスカッション②				事前：資料作成、発表準備 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 小レポート作成(20分)		
14	授業全体の課題を確認し、授業内でレポートを作成。				事前：全授業の資料を集めて目を通す。 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)		
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。				事前：授業全体を振り返る。 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、 ディスカッション(45分)		
教 本 :					参 考 文 献 :				
特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。					その都度提示します。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。住んでいる地域の伝統文化とは何か、興味を持ってください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 I (Regional Cultures I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。</p> <p>2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇地域文化論 I の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3~9精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史~中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236~242精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化~文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11~16精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16~19精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ① コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 と 寛 容 性 の 理 解 を 深 め る 。					事前：教本 pp.19~24精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ② 想 像 / 創 造 す る 力 の 可 能 性 を と も に 考 え る 。					事前：教本 pp.24~31精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	言 語 ① 英 語 帝 国 主 義 ~ 日 本 人 は な ぜ 英 語 が 話 せ な い の か 。					事前：教本 pp.108~117精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	言 語 ② 国 家 と 標 準 語 ・ 方 言 と の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.117~134精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	非 言 語 ① 非 言 語 メ ッ セ ー ジ と ス テ レ オ タ イ プ の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.135~144精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	非 言 語 ② 沈 黙 の 意 味 ~ 日 本 人 と 以 心 伝 心 と の 関 係 を 考 え る 。					事前：教本 pp.144~152精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	時 間 ・ 空 間 - 記 憶 と 忘 却 と の 関 係 性 に つ い て、東 日 本 大 震 災 を 基 に 議 論 を 深 め る 。					事前：教本 pp.152~157精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
13	発 展 学 習 ① 生 物 多 様 性 と 文 化 と の か か わ り を 考 え る 。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
14	発 展 学 習 ② 建 築 と 文 化 と の か か わ り を 考 え る 。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
15	ま と め ・ 地 域 文 化 論 I の 内 容 を 総 括 し、議 論 を 深 め る 。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 中 に 課 す 小 レ ポ ー ト (40%)、及 び 期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 II (Regional Cultures II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 克								
履 修 条 件	前 提 科 目	地 域 文 化 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 様 々 な 地 域 文 化 の 構 成 要 素 で 有 る 多 様 な 文 化 資 源 の 関 係 性 を 学 ん で い く 。 地 域 文 化 の 捉 え 方 を 理 解 し 、 そ の 背 景 に 有 る 国 や 地 方 自 治 体 の 取 り 組 み や 、 保 存 、 活 用 の た め の 法 律 等 を ど の よ う に 活 用 す る こ と が 出 来 る の か 考 え る 。 実 際 の 地 域 文 化 に よ る 地 域 活 性 化 事 例 を 確 認 し て 、 分 析 す る 。									
授 業 目 標 : 地 域 文 化 と は 何 か を 考 察 し 、 そ の 様 々 な 構 成 要 素 で 有 る 各 種 資 源 に つ い て 、 そ の 活 性 化 と 活 用 方 法 を 学 ぶ 。 地 域 文 化 の バ ー ス と な る 多 種 多 様 な 文 化 等 の 資 源 の 関 係 性 を 明 ら か に し 、 環 境 (文 化) ク ラ ス タ ー と し て の 保 存 と 活 性 化 を 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。				事前：地域、文化の意味を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(60分)、 アンケート(30分)	
2	地域文化 I の復習。地域文化の保護と活性化について、国や地方自治体の取り組みについて確認する。				事前：地域文化とは何か、自分で考える。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)	
3	日本の地域文化の特性を、世界の中で比較しつつ考察する。				事前：居住する自治体のHPを検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)	
4	地方自治体や地域の取り組みと法律。文化的景観や、重伝建地区の具体的あり方を学ぶ。				事前：文化的景観、重伝建地区を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
5	地域文化と構成資源① 地域文化と地域の歴史、地域の人との関係性特に登録有形文化財の活用について事例を確認する。				事前：登録有形文化財について調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(50分)、 小テスト(40分)	
6	地域文化と構成資源② 地域文化と自然や風土との関係性				事前：風土という言葉の意味を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(50分)、 小テスト(40分)	
7	地域文化の事例研究① 新潟県上越市高田を中心とした地方企業の取り組み事例を確認する。				事前：上越市についてネットで調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
8	地域文化の事例研究② 関東地方を中心に様々な地域文化の事例についてみていく。学生が地域文化事例を調査研究する地域を検討する。				事前：関東地方の地図を確認 事後：対象地域を調べて決める。			講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
9	地域文化の事例研究③ 学生が地域文化事例を調査研究する地域を決めて調査に着手する。				事前：資料作成、発表準備 事後：配布資料の内容確認			講義(20分)、演習(70分)	
10	どこまでが地域文化か考える① 新潟県妻有地区やその他の芸術祭や、各地の阿波踊り、サンバカーニバルの事例を見ていく。				事前：対象の事例をネットで見ておく。 事後：配布資料の内容確認			講義(60分)、 ディスカッション(30分)	
11	どこまでが地域文化か考える② 地域文化の捉え方について、研究者の論文を読み解き、みんなで議論する。何が地域文化かなのか考察。				事前：指定した論文を読んでおく。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
12	調査・研究発表① 学生がグループで事例研究について発表。				事前：報告準備 事後：発表に関する評価とコメント作成			報告(60分)、討論(30分)	
13	調査・研究発表② 学生がグループで事例研究について発表				事前：報告準備 事後：発表に関する評価とコメント作成			報告(60分)、討論(30分)	
14	全体を振り返り、課題についてレポートを作成する。				事前：今までの授業資料を全て確認する。 事後：発表に関する評価とコメント作成			報告(40分)、討論(30分)、 講評(20分)	
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。				事前：授業全体を振り返る。 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、 ディスカッション(45分)	
教本： 特にありません。多くの回で資料プリントを配布します。					参考文献： その都度提示します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 地域文化活性化の事例を確認して、自分たちでも調べると共に、常にどこまでが、どういう理由で地域文化なのか考えておくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 II (Regional Cultures II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	地 域 文 化 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。</p> <p>2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇ 地 域 文 化 論 II の 全 体 像 を 概 観 す る。					事 前 : シ ラ バ ス 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
2	異 空 間 と し て の メ デ ィ ア ① 現 代 の 映 像 メ デ ィ ア と 文 化 と の か か わ り を 考 え る。					事 前 : 教 本 pp. 83 ~ 95 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
3	異 空 間 と し て の メ デ ィ ア ② メ デ ィ ア と 権 力 ~ メ デ ィ ア が 世 界 を 変 え る の だ ろ う か。					事 前 : 教 本 pp. 95 ~ 108 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
4	メ デ ィ ア と 文 化 ① グ ロ ー バ ル 社 会 と メ デ ィ ア 文 化 に つ い て 検 討 す る。					事 前 : 教 本 pp. 37 ~ 50 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
5	メ デ ィ ア と 文 化 ② 戦 争 の 記 憶、記 憶 の 戦 争 に つ い て 理 解 を 深 め る。					事 前 : 教 本 pp. 50 ~ 59 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
6	異 文 化 接 触 ① 「カルチャーショック」と適応について事例を検討する。					事 前 : 教 本 pp. 61 ~ 90 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
7	異 文 化 接 触 ② アイデンティティと「他者」~自分探しの意味を考える。					事 前 : 教 本 pp. 90 ~ 108 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
8	文 化 の ポ リ ティ ク ス 現 実 は つ く ら れ る ~ ア フ リ カ と 貧 困 ・ 開 発 問 題 を 知 る。					事 前 : 教 本 pp. 159 ~ 169 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
9	グ ロ ー バ リ ゼ ー シ ョ ン の 行 方 ① グ ロ ー バ ル 化 と 格 差 社 会 ~ 貨 幣 と 文 化 の 関 係 を 知 る。					事 前 : 教 本 pp. 181 ~ 188 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
10	グ ロ ー バ リ ゼ ー シ ョ ン の 行 方 ② 画 一 化 さ れ な い 食 文 化 と は ど の よ う な も の か 考 え る。					事 前 : 教 本 pp. 189 ~ 192 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
11	グ ロ ー バ リ ゼ ー シ ョ ン の 行 方 ③ オ ル タ ナ ティ ブ な 世 界 の 構 築 に 向 け て 何 が で き る か。					事 前 : 教 本 pp. 192 ~ 205 精 読 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		報 告 60 分、討 論 30 分	
12	研 究 発 表 1 ・ これまでの学びの成果を発表する。					事 前 : 報 告 準 備 事 後 : 発 表 評 価 表 の 作 成		報 告 60 分、討 論 30 分	
13	研 究 発 表 2 ・ これまでの学びの成果を発表する。					事 前 : 報 告 準 備 事 後 : 発 表 評 価 表 の 作 成		報 告 60 分、討 論 30 分	
14	研 究 発 表 3 ・ これまでの学びの成果を発表する。					事 前 : 報 告 準 備 事 後 : 発 表 評 価 表 の 作 成		報 告 60 分、討 論 30 分	
15	ま と め ・ 地 域 文 化 論 II の 総 括 と と も に 議 論 を 深 め る。					事 前 : こ れ ま で の 復 習 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義 60 分、討 論 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石 井 敏 ほ か 『 は じ め て 学 ぶ 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 一 多 文 化 共 生 と 平 和 構 築 に 向 け て 』 有 斐 閣、2013 年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 中 の 小 レ ポ ー ト (40%) 及 び 期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	着地型・発地型観光論 I (Alternative Tourism and Mass Tourism I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 映像でイメージを掴み、着地型観光の特性を理解した上でメリットとデメリットを討議。									
授業目標： 着地型観光の特性を活かした観光プランが作成できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	地域はなぜ観光に向かうのか：観光による地域おこしについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
3	着地型観光と地域資源：地域のオンリーワンの観光資源を探し出し、ブラッシュアップし、発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
4	着地型観光の事業主体：地域の観光の運営主体は誰かについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
5	着地型観光の商品企画：実際に商品企画をしてみて、行程、販売価格、販売対象などを考え、発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
6	着地型観光の流通・販売：地域の観光資源をどのように販売したら良いか考え、発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
7	着地型観光における住民の役割：観光による地域振興における住民の果たす役割について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
8	体験交流型観光：体験型観光の重要性について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
9	ニューツーリズム開発：持続可能な観光について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
10	エコツーリズム：エゴツーリズムに変わってしまわないようにする方策を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
11	放射線の効用：放射線のホルミシスについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
12	温泉文化：体に良い温泉、体に悪い温泉を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
13	嗜好品文化：世界各国の嗜好品について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
14	食の安心・安全：危険な食とは何かについて考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
15	ディズニーランド：ディズニーランドのリピーターが多い理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
教本： プリントを配布する					参考文献： 尾家建生他著「これでわかる着地型観光」田畑書店 ￥1,500+税 浜田篤郎著「伝説の海外旅行」田畑書店 ￥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参加度、小テスト等）(40%)、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 楽しくなければ観光は学べない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	着 地 型 ・ 発 地 型 観 光 論 II (Alternative Tourism and Mass Tourism II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	着 地 型 ・ 発 地 型 観 光 論 I を 同 時 履 修 か、過 去 に 履 修 し た こ と が あ る。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 映 像 に よ り イ メ ー ジ を 掴 み、発 地 型 観 光 の 多 様 な 形 態 を 学 び、そ の メ リ ッ ト と デ メ リ ッ ト を 討 議 す る。									
授 業 目 標： 発 地 型 観 光 の 特 性 を 活 か し た 観 光 プ ラ ン が 作 成 で き る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	海 外 旅 行 の 基 礎 (I)：3 レ タ ー コ ー ド に よ り、航 空 会 社 や 都 市 名 を 表 示 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
2	海 外 旅 行 の 基 礎 (II)：時 差 や 国 際 便 の 航 空 機 の 飛 行 時 間 の 計 算 方 法 を 理 解 し、問 題 を 解 く。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
3	食 旅：安 全 ・ 安 心 の 食、危 険 な 食、地 産 地 消 な ど を 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
4	祭 旅：祭 り に よ る 町 お こ し を 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
5	産 業 観 光：産 業 観 光 を 活 用 し た 地 域 振 興 の 方 法 を 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
6	ス ポ ー ツ ・ ヘ ル ス ・ ツ ー リ ズ ム：ス ポ ー ツ を 活 用 し た 観 光 や 健 康 づ くり を 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
7	メ デ ィ カ ル ・ ツ ー リ ズ ム：医 療 を 目 的 と し た 観 光 振 興 の 是 非 に つ い て 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
8	肉 食 文 化：肉 食 文 化 と 穀 物 文 化 を 比 較 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
9	航 空 機 の な ぞ：ジ ャ ー ト 燃 料 と は 何 か、ジ ャ ン ボ ジ ャ ー ト 機 は な ぜ、姿 を 消 し た の か な ど に つ い て 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
10	カ ジ ノ ミ ク ス：総 合 レ ジ ャ ー 施 設 建 設 に 伴 う メ リ ッ ト、デ メ リ ッ ト を 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
11	ホ テ ル 利 用 法：国 際 ホ テ ル の 利 用 方 法 を 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
12	エ ア ラ イ ン ・ ク ラ イ シ ス：航 空 会 社 経 営 環 境 の 変 化 に 伴 う 営 業 戦 略 の 変 化 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
13	旅 行 の 健 康 管 理：旅 行 に 伴 う 体 調 の 変 化 と 病 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
14	海 外 旅 行 犯 罪：海 外 旅 行 で 遭 遇 す る 犯 罪 と 被 害 に 遭 わ ない た め の 方 策 を 考 え、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
15	麻 薬 文 化：麻 薬 に 対 す る 厳 罰 国 と 容 認 国 の 考 え 方 の 違 い を 考 察 し、討 議 す る。					事 前：参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後：配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義 50 分、映 像 20 分、 討 議 20 分	
教 本： プ リ ン ト を 配 布 す る。					参 考 文 献： 尾 家 建 生 他 著「こ れ で わ か る 着 地 型 観 光」田 畑 書 店 ¥1,500+ 税 浜 田 篤 郎 著「伝 説 の 海 外 旅 行」田 畑 書 店 ¥1,500+ 税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (授 業 参 加 度、小 テ ス ト 等) (40%)、定 期 試 験 (60%) 等									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 楽 し く な け れ ば 観 光 は 学 べ ない。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	中国語 I (Chinese I)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	沈 瑛									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>本講義では中国語の発音から初めて、正しい発音の仕方を身につけるようにしていきます。そして、中国語の日常会話を中心とする簡単な挨拶や会話を学びます。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>1. 中国への関心を高める。 2. 発音・文法の初歩から初めて、中国語の基礎を理解する。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション：講義の概要と中国語の学び方					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義		
2	発音					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
3	教科書第1課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
4	教科書第1課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
5	教科書第2課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
6	教科書第2課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
7	復習（ミニテスト①）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説		
8	教科書第3課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
9	教科書第4課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
10	教科書第4課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
11	教科書第5課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
12	教科書第5課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
13	教科書第6課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
14	復習（ミニテスト②）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説		
15	全体のまとめ					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義20分、ディスカッション30分、発表40分		
<p>教本： 参考文獻：</p> <p>【《改訂版》さあ、中国語を学ぼう—会話・講義—】竹島毅・趙昕著（白水社出版） なし。 税別 ¥2,400、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。</p>										
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（10%）等で総合評価します。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>外国語の学習には基本的な文法などを理解すること、基本的な語彙を覚えるという過程があります。予習・復習を必ず行ってください。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	中 国 語 I (Chinese I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
中国語を学ぶ上で、発音が難しいことはよく知られているが、「文法の体系がよくわからない」、「どう表現すれば正しいのか」という声もよく聞かれている。本授業はこうしたことを考慮し、できるだけ丁寧に解説する。									
授 業 目 標 :									
語学力を磨き、簡単な会話でも良いので、コミュニケーション力をつけると知識を理解し、学んだ日常短文を生かしてたくさんの人と会話して、気持ちを理解し合う。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 中国語とは、中国語の特徴、学習方法					事前：なし 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
2	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) ピンイン (拼音)、発音。選択疑問語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
3	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 「是」の文					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
4	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 「的」の用法、疑問詞、疑問文					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
5	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 「所有」を表す「有」					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
6	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 指示代名詞					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
7	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 数字、日付の教え方					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
8	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 完了の表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
9	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 反復疑問文					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
10	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 時間量の表示方法					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
11	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 過去の経験を表す表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
12	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 「是・・・的」文の表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
13	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 「しにくる、しに行く」の表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
14	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞 (10分) 自己紹介文の作成					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
15	全体のまとめ					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
竹島金吾等 (著)『中国語ははじめの一步』白水社最新版					山下輝彦『中国語入門』白水社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
言 葉 は 歌 の よう な も の で、ま ず 聞 い て、真 似 て 見 る こ と か ら 始 め る。知 的 好 奇 心 の 幅 を ち ょ っ と 広 げ て 見 て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	中国語Ⅱ (Chinese II)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	沈 瑛									
履 修 条 件	前提科目	中国語Ⅰを履修していること。								
	その他	なし								
授業概要： 中国語は発音が大事です。中国語コミュニケーションⅠで学んだ発音を確認した後、Ⅰで学習した内容をベースに基礎的な文法を学びつつ、単語の知識を増やしていきます。大学で留学生との日常会話ができるような力を身につけていきます。										
授業目標： 1. 基礎的な文法を学習する。 2. 日常の会話力、リスニング力の習得を目指す。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション：講義の概要					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義		
2	発音					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
3	教科書第7課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
4	教科書第8課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
5	教科書第8課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
6	教科書第9課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
7	教科書第9課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
8	復習（ミニテスト①）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説		
9	教科書第10課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
10	教科書第11課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
11	教科書第11課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
12	教科書第12課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
13	教科書第12課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分		
14	復習（ミニテスト②）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説		
15	全体のまとめ					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義20分、ディスカッション30分、発表40分		
教本： 【改訂版】さあ、中国語を学ぼう－会話・講義－ 竹島毅・趙昕著（白水社出版） 税別 ¥2,400、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。										
参考文献： なし。										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（10%）等で総合評価します。										
学生へのアドバイス： 単語を覚えることと共に、外国語は積極的に話すことが大事です。特に会話に力点を置いてあります。自ら考えて話すことが大切です。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	中国語Ⅱ (Chinese II)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	仲 伯 維									
履 修 条 件	前提科目	中国語Ⅰ履修済みを前提とする。								
	その他	なし								
授業概要： 中国語を学ぶ上で、発音が難しいことはよく知られているが、「文法の体系がよくわからない」、「どう表現すれば正しいのか」という声もよく聞かれている。本授業はこうしたことを考慮し、できるだけ丁寧に解説する。										
授業目標： 語学力を磨き、簡単な会話でも良いので、コミュニケーション力をつけると知識を理解し、学んだ日常短文を生かしてたくさんの人と会話して、気持ちを理解し合う。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 中国語とは、中国語の特徴、学習方法					事前：なし 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
2	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） ピンイン（拼音）、発音。選択疑問語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
3	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 回数補語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
4	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 比較表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
5	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 能願動詞「会」、「能」					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
6	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 能願動詞「想」、「要」					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
7	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 方向補語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
8	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 結果補語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
9	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 受身					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
10	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 使役					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
11	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 二重主語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
12	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 「就」、「才」の区別					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
13	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 「有・没有」の使用					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
14	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 自己紹介文の作成					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
15	全体のまとめ					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分		
教本： 『しっかり 初級 中国語』白水社					参考文献： 山下輝彦『中国語入門』白水社 最新版					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（50%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 言葉は歌のようなもので、まず聞いて、真似て見ることから始める。知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国語コミュニケーション (Chinese Communication)						科目分類	専門科目	
担当教員	仲 伯維								
履修条件	前提科目	中国語Ⅰ、Ⅱ履修済みを前提とする							
	その他	なし							
授業概要： 基本的な文法、語彙を整理した上、書く、読む、話すなど中国語初心者としての中国ビジネスコミュニケーションに、必要な基本的知識と実技を確実に身につける。授業中は中国語をできるだけたくさん話してみましょう。									
授業目標： 中国ビジネスコミュニケーションの入門レベル達成すること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクション					事前：シラバス確認 事後：テキスト確認		ガイダンス＋質疑	
2	教科書第1回A					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義、練習＋ディスカッション	
3	教科書第1回B					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義、練習＋ディスカッション	
4	教科書第2回A					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義、練習＋ディスカッション	
5	教科書第2回B					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義、練習＋ディスカッション	
6	復習＋応用その1					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義30分、練習60分	
7	教科書第3回A					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義、練習＋ディスカッション	
8	教科書第3回B					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義、練習＋ディスカッション	
9	教科書第4回A					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義、練習＋ディスカッション	
10	教科書第4回B					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義、練習＋ディスカッション	
11	復習＋応用その2					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義30分、練習60分	
12	教科書第5回A					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義、練習＋ディスカッション	
13	教科書第5回B					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		講義、練習＋ディスカッション	
14	復習＋応用その3					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		プレゼンテーション準備	
15	総括					事前：CDを聞き、本文読み 事後：練習、復習		プレゼンテーション	
教本： 竹島金吾監（2022）『新版 中国語更なる一歩』白水社。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、最終レポート試験（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業中なるべく中国語を練習し、声を出すこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中 国 文 化 研 究 A (Chinese Studies A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 本 授 業 で は、中 国 の 全 般 を 理 解 す る た め に、多 様 な 領 域 の 知 識 と 考 え 方 を 用 い て 学 ぶ。後 期 の 中 国 文 化 研 究 B の 前 提 科 目。									
授 業 目 標 : 1、異 文 化 を よ り 解 像 度 を 上 げ て、理 解 す る こ と。2、そ の た め の 自 然 環 境、生 活 習 慣 な ど 歴 史 的、理 論 的、空 間 的、文 化 的 観 点 を 身 に つ け る こ と。3、中 国 は 地 理 的 に 日 本 に 近 く、似 た よ う な 文 化 を 持 つ 反 面、日 本 を 相 対 化 し た 視 点 で 見 ら れ る よ う に す る こ と を 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	イ ン ト ロ ダ ク シ ョ ン				事 前 : シ ラ バ ス を 確 認		ガ イ ダ ン ス + 質 疑		
2	時 間 的 考 え る : 中 国 の 歴 史、社 会				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
3	文 化 鑑 賞 : 『東 周 列 国 志』 の 紹 介				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
4	仏 教 と 中 国、日 本。文 化 鑑 賞 : 『西 遊 記』 の 紹 介。				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
5	中 国 の 科 挙				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
6	日 中 関 係				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
7	中 国 の 世 界 遺 産 そ の 1				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
8	中 国 の 世 界 遺 産 そ の 2				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
9	中 国 の 企 業				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
10	中 国 の 音 楽				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
11	中 国 の 芸 術				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
12	文 化 鑑 賞 : 三 国 志				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
13	中 国 の 映 画				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
14	中 国 の 服 飾				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		講 義 70 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分		
15	総 括				事 前 : 配 布 資 料 を 確 認 事 後 : 配 布 資 料 を 復 習		プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン		
教 本 : 特 に 設 定 せ ず、適 時 プ リ ン ト 配 布。					参 考 文 献 : 授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、最 終 レ ポ ー ト 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎 回 出 席 を カ ウ ン ト す る。出 席 を 要 求 す る。積 極 的 に デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中 国 文 化 研 究 B (Chinese Studies B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前 提 科 目	中 国 文 化 研 究 A							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本授業では、中国の全般を理解するために、多様な領域の知識と考え方をを用いて学ぶ。前期の中国文化研究Aを履修し、履修者に自分の興味や関心のあるテーマを決める。資料を収集して、最終的にレポートを完成させ、発表する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1、異文化をより解像度を上げて、理解すること。2、そのための自然環境、生活習慣など歴史的、理論的、空間的、文化的観点を身につけること。3、中国は地理的に日本に近く、似たような文化を持つ反面、日本を相対化した視点で見られるようにすることを理解する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	イ ン ト ロ ダ ク シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス 確 認		ガ イ ダ ン ス + 質 疑	
2	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
3	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
4	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
5	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
6	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
7	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
8	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
9	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
10	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
11	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
12	履 修 者 各 自 の 発 表 テ ー マ の 相 談、指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
13	最 終 レ ポ ー ト の 作 成 指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
14	最 終 レ ポ ー ト の 作 成 指 導					事 前 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集 事 後 : 各 自 の 発 表 テ ー マ 資 料 収 集		発 表 20 分 + デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分 + 解 説	
15	ま と め					事 前 : 配 布 資 料 を 確 認		プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	
教 本 :					参 考 文 献 :				
特 に 設 定 せ ず、適 時 プ リ ン ト 配 布。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、最 終 レ ポ ー ト 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
毎 回 出 席 を カ ウ ン ト す る。出 席 を 要 求 す る。積 極 的 に デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	調査研究(フィールドワーク)(Fieldwork)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学関連科目							
	その他	文献読解力、アカデミックライティング技術が必要となる。授業以外に相当な時間と労力を要する。 Google Classroom 利用。ノートパソコン持参。							
授業概要： 「エスノグラフィック・フィールドワーク」調査法（調査法の種類と特徴、問いの設定、調査対象設定、調査計画、文献検討、先行研究分析、倫理審査、参与観察、インタビュー、フィールドノート、データ分析、報告書作成）のプロセスを習得します。									
授業目標： 1. 多様な調査法と、エスノグラフィック・フィールドワーク調査法の特徴を習得する。 2. エスノグラフィーを読み、読解し、自分の調査計画にいかすことができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	量的調査、質的調査およびフィールドワーク調査の特徴、プロセスを学ぶ。					事前：高校地理を振り返る 事後：復習する		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	エスノグラフィーを読む（学術論文、市場調査）					事前：高校地理を振り返る 事後：復習する		講義 60分、 グループワーク 30分	
4～6	問いと対象を立ててみる。対象に応じて調査企画案を作成する。倫理審査申請書と調査協力依頼書等、必要書類作成を学ぶ。必要書類を提出する。各自、対象に関する文献資料を収集し、発表する。調査企画とフィールドデザインする。					事前：文献資料を収集する 事後：教科書 2 回・3 回を復習する		講義 60分、 ディスカッション 30分	
7・8	参与観察法、インタビュー法、フィールドノート作成およびインターネットエスノグラフィーについて学び、履修者間でエクササイズをする。					事前：ノートを購入する 事後：教科書 4 回～6 回を復習する		実習	
9	調査企画をたてる					事前：関心テーマを絞る 事後：教科書 7 回・8 回を復習する		講義 60分、 ディスカッション 30分	
10・11	事例カード、関係図作り、概念、「K」法について学ぶ					事前：事例を読み込む 事後：教科書 9 回を復習する		実習	
12	概念関係図から、事例を再構成し、理論的テーマを確定する。設問、鍵概念、結論、章立て					事前：事例を読み込む 事後：教科書 10 回・11 回を復習する		講義 60分、 ディスカッション 30分	
13・14	エスノグラフィー（報告書）執筆					事前：報告書執筆 事後：コメントを反映する		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
15	発表、フィードバック					事前：プレゼン準備 事後：報告書修正		プレゼンテーション 60分、 ディスカッション 30分	
教本： 村田晶子・箕曲在弘・佐藤慎司 他編 『フィールドワークの学び方』ナカニシヤ出版 ¥2,200+税					参考文献： 中島洋『初学者のための質的研究26の教え』医学書院、¥1,800+税				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、調査の各段階の達成・課題提出等（30%）、報告書（50%）等で総合評価します。本授業は、大学外の方々のご協力が進めていきますので、全回、出席することが前提です。また信頼を損なう行為があった場合は単位判定の対象としません。									
学生へのアドバイス： 社会的文化的視点からの分析、文献読解力、レポート作成力を高めたい人に勧めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地理学 (Geography)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 地理学は系統地理学と地誌学に分かれ、系統地理学は自然地理学と人文地理学に細分化する。本授業では、系統地理学の観点から自然と人間との関わり合いと、現代世界の生活文化、地域問題の現状について学ぶ。									
授業目標： 空間スケールでの現象の多様性と相互関係性を考察する能力を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：ノート整理		講義	
2	地理学とは 地理学の目的と課題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
3	地理情報と表現方法					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
4	地図の概要と地形図の読図					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
5	地球の姿と成り立ち					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
6	世界の地形① 地球規模の大地形					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
7	世界の地形② 河川の小地形					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
8	世界の気候 気候の成り立ちと世界の気候区分					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
9	ハザードマップ概要					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
10	わがまちのハザードマップ調査					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
11	洪水ハザードマップと日常生活、自然災害					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
12	資源と産業—工業の立地変化					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
13	世界の人口—世界の人口問題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
14	生活文化・民俗地理—世界の食肉文化・生活と環境					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
15	まとめ					事前：前回のノート整理 事後：地域理解ができたか		講義	
教本： なし。必要に応じてプリントを配布します。					参考文献： 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地理学概論 I (Geography I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 地理学の歴史と発展を紹介し、現代地理学の知識体系及び地図、フィールドワークなどの地理学研究の基本的方法を講義する。									
授業目標： 地理学に関わる歴史や基本概念について、具体例を通して地理学がいかなる学問であるかを理解し、説明できるようになることが目的とする。また、人間の生活・活動・行動が展開する空間、場所、環境に対する深い認識と説明力を習得し、地理学の見方で身近の空間を理解できるようになることが目的とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：ノート整理		講義	
2	地理学史の概略					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
3	地理学とは① 地理学の目的と課題					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
4	地理学とは② 現代における地理学の定義、研究分野の分け方					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
5	地理学とは③ 地理学の中心概念：空間、場所、環境					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
6	現代地理学の課題と自然環境（自然地理学の諸分野）					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
7	現代地理学の課題と人文社会(人文地理学の諸分野)					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
8	地図の基本と応用：地図はなぜ必要か					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
9	地理情報と表現方法					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
10	地図の概要と地形図の読図					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
11	フィールドワーク① 地域を調査する方法					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
12	フィールドワーク② 地域調査する際の心構えと注意点					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
13	地理学の視点で地域を考える(事例解説① 原宿)					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
14	地理学の視点で地域を考える(事例解説② 白川郷)					事前：前回のノートを整理 事後：専門用語の理解		講義	
15	まとめ					事前：前回のノートを整理 事後：地域理解ができたか		講義	
教本： なし。必要に応じてプリントを配布します。					参考文献： 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地理学概論Ⅱ (Geography Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	地理学概論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 世界の地形、気候、資源、産業、文化など自然地理学と人文地理学の分野を説明し、地理学的な考え方をを用いて人口問題、都市問題、環境問題を考える。									
授業目標： 受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指す。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：講義で扱う地域確認 事後：ノート整理		講義	
2	地誌学とは 地誌学の目的とアプローチ					事前：前回のノート整理 事後：ノート整理		講義	
3	地誌学と国際理解教育 アジアにおける地理教育					事前：前回のノート整理 事後：ノート整理		講義	
4	生活の舞台としての地形① 世界の地形、地殻変動					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
5	生活の舞台としての地形② 日本の地形の特徴と人間生活					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
6	世界の気候① 気候と気象、気候要素、ケッペンの気候区分					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
7	世界の気候② 気候変化と地球温暖化、日本の気候の特徴と人間生活					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
8	世界の資源と産業① 世界の農牧業、日本の農業					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
9	世界の資源と産業② 世界の鉱産資源、工業の発達過程					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
10	世界の都市・居住問題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
11	世界の人口・食糧問題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
12	世界の環境問題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
13	受講者による発表① 身近な地域を調べよう					事前：発表準備 事後：地域確認		発表	
14	受講者による発表② 身近な地域を調べよう					事前：発表準備 事後：地域確認		発表	
15	まとめ					事前：テスト準備 事後：探求心は身に付いたか		講義	
教本： なし。必要に応じてプリントを配布します。					参考文献： 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、発表（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	地 理 情 報 シ ス テ ム (Geographical Information Systems)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と。							
授 業 概 要 : この授業では、地理情報システム (GIS) の基礎知識を学び、身の回りの事例やオープンデータを用いて、実際に GIS を活用する方法を習得することを目的とします。具体的には、地図と GIS の関係を理解し、地図データと地図上の事物、現象の属性データを統合してデータベース化し、それを検索、分析、可視化することを目指します。そのために、GIS の基本操作、空間分析の方法を身に付けます。									
授 業 目 標 : ① GIS とは何か、活用事例に関連付けて説明できる。 ② GIS のデータモデル、座標系について説明できる。 ③ GIS のオープンデータを活用することができる。 ④ GIS の基本操作ができる。 ⑤ GIS を使用して、空間分析ができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	インストラクション「地理情報システム (GIS)」 授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。GIS とは何か、GIS の活用事例を紹介する。			事前：なし 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク (10分) 講義 (80分)		
2	GIS のデータモデル ベクター形式のデータモデルとラスター形式のデータモデルについて学ぶ。			事前：GIS のデータモデルについて調べてまとめる。 事後：ミニッツペーパー			講義 (90分)		
3	GIS と座標系 座標系とは何か、地図と GIS の座標系について学ぶ。			事前：地図と GIS の座標系について調べてまとめる。 事後：ミニッツペーパー			講義 (90分)		
4	GIS のオープンデータ (1) 基盤地図情報のダウンロードと地図化について学ぶ。			事前：国土地理院の Web サイトで基盤地図情報について下調べをする。 事後：指定する地域の基盤地図情報を地図化する。			講義 (40分) 実習 (50分)		
5	GIS のオープンデータ (2) 国勢調査データのダウンロードと地図化について学ぶ。			事前：総務省の Web サイトで国勢調査データについて下調べをする。 事後：指定する地域の国勢調査データを地図化する。			講義 (40分) 実習 (50分)		
6	GIS のオープンデータ (3) 国土数値情報のダウンロードと地図化について学ぶ。			事前：国土交通省の Web サイトで国土数値情報について下調べをする。 事後：指定する地域の国土数値情報を地図化する。			講義 (40分) 実習 (50分)		
7	GIS の基本操作 (1) プロジェクトの作成とデータの入出力について学ぶ。			事前：指定する GIS について Web サイトで下調べする。 事後：今回学んだ基本操作を復習する。			講義 (40分) 実習 (50分)		
8	GIS の基本操作 (2) レイヤの編集について学ぶ。			事前：レイヤについて読んでまとめる。 事後：今回学んだ基本操作を復習する。			講義 (40分) 実習 (50分)		
9	GIS の基本操作 (3) 地図と属性データの結合、属性検索について学ぶ。			事前：地図と属性データの結合について読んでまとめる。 事後：今回学んだ基本操作を復習する。			講義 (40分) 実習 (50分)		
10	GIS の基本操作 (4) 属性テーブル編集とフィールド演算について学ぶ。			事前：属性テーブルとフィールド演算について読んでまとめる。 事後：今回学んだ基本操作を復習する。			講義 (40分) 実習 (50分)		
11	GIS の基本操作 (5) バッファの作成とオーバーレイについて学ぶ。			事前：バッファとオーバーレイについて読んでまとめる。 事後：今回学んだ基本操作を復習する。			講義 (40分) 実習 (50分)		
12	GIS の課題研究：課題データのダウンロードと編集を行う。			事前：課題データのテーマを決める。 事後：課題研究を進める。			講義 (20分) 実習 (70分)		
13	GIS の課題研究：空間分析を行う。			事前：なし 事後：課題研究を進める。			講義 (20分) 実習 (70分)		
14	GIS の課題研究：空間分析のまとめ、レポートの作成を行う。			事前：なし 事後：レポートを完成させ、期限までに提出する。			講義 (20分) 実習 (70分)		
15	課題研究発表と学びの振り返りを行う。 GIS が支える近未来の社会について考える。			事前：学習ポートフォリオを整理する 事後：学びの振り返り。			講義 (30分) 発表 (60分)		
教 本 : 授業内で指示する。									
参 考 文 献 : 羽田 康祐 (2021) 『地図リテラシー入門—地図の正しい読み方・描き方がわかる』ベレ出版 ISBN : 978-4860646660 金徳 謙 (2020) 『これで使える QGIS 入門 — 地図データの入手から編集・印刷まで』ISBN : 978-4779514357 その他、必要に応じて授業内で紹介する。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 学習ポートフォリオ (ミニッツペーパー、事前事後課題、振り返り等) : 60%、課題研究 : 40% ※学習ポートフォリオは、ルーブリック (評価基準) による自己評価を含む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : スマートフォンやインターネット上に、地図が溢れている時代、それを支える GIS の仕組みを理解して、地図と情報を適切に活用することができる力は、今を生きるために求められる力といえます。この授業では、実際に GIS を使用した実習が主となります。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	ディスカッション (Discussion)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 :									
ディスカッションのトレーニングを行なう。グループディスカッションの手順を知る。意見の述べ方、反論のしかた、意見のまとめ(総括)のしかたを知り、トレーニングする。ディベートの実践、分析も同様に行なう。コミュニケーションにおける自己の特徴を理解し、弱点改善のためのトレーニングを行なう。									
授 業 目 標 :									
1. ディスカッションとディベートの目的や意義・方法について理解を深める。 2. 自らの立場を明確にして論理的に意見を述べることができる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (授業の進め方) 自己評価 グループディスカッションについて (概説)					事前: シラバスを読んでくる 事後: 資料の整理と記入		講義(30分)・ 各自作業(60分)	
2	自己理解を深める アイスブレイク、スモールトーク グループディスカッション 事前準備 1					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)	
3	傾聴(うなずき・あいづち・復唱)、議論でのルール 司会者(ファシリテーター)の役割 グループディスカッション 事前準備 2					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義(30分)・ グループ活動(60分)	
4	ブレインストーミング・ブレイン・ライティング(概説) グループディスカッション 1 (ブレイン・ライティング)					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義(40分)・ グループ活動(50分)	
5	意見の述べ方 (意見と根拠 論理性) グループディスカッション 2 (ブレイン・ライティング)					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)	
6	アイデアの広げ方 別の立場・視点から考える グループディスカッション 3 (ブレインストーミング)					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)	
7	議論の整理のしかた グループディスカッション 4 (ブレインストーミング)					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)	
8	論題(テーマ)の種類 テーマ分析と論点の確認 グループディスカッション 5					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義(30分)・ グループ活動(60分)	
9	意見への質問のしかた 議論の深め方 (反対意見を想定してみる) グループディスカッション 6					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)	
10	反論のしかた (引用、譲歩、反駁) グループディスカッション 7					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)	
11	意見のまとめ(総括)のしかた グループディスカッション 8					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)	
12	ディベートについて (概説) 動画視聴					事前: 配付資料の熟読 事後: ノート・資料の整理		講義(30分)・ グループ活動(60分)	
13	ディベート 1					事前: なし 事後: 活動メモの整理記入		講義(30分)・ グループ活動(60分)	
14	ディベート 2					事前: なし 事後: 活動メモの整理記入		講義(30分)・ グループ活動(60分)	
15	全体のまとめ 事後自己評価					事前: 質問・確認の洗い出し 事後: なし		講義(30分)・ グループ活動(60分)	
教 本 : 宮内泰介著『グループディスカッションで学ぶ 社会学トレーニング』三省堂 ・資料とタスクシートを配付する。									
参 考 文 献 : 下瀬川慧子他『日本語 口頭発表と討論の技術』東海大学出版会 中野美香著『大学生からのグループディスカッション入門』ナカニシヤ出版									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 議論への参加等の発言 (65%)、振り返りレポート・提出物等 (30%)、自己評価票 (5%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 議論することのおもしろさを体験しましょう。討論に参加する際の発言のしかたやマナーなども身につけます。積極的に議論に参加しようという心構えを持って受講してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	ディスカッション (Discussion)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	横 手 拓 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
本講は、同じテーマについて意見の違い・主張の違い・考え方の力点の相違があることを理解し、それらを分析したうえで、自身の見解をまとめ、伝えることを実践する。この実習を通じて、よりよい論議の方法について学修するものである。									
授 業 目 標 :									
*新聞の記事・論調を材料に、現代のさまざまな問題に対する背景事情、関連情報等を把握するとともに、見方や考え方、主張等を理解しながら、ディスカッションのスキルを身につける。*メディア・リテラシーを涵養することにも繋がる授業である。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授業の進め方を含めた、全体のオリエンテーション					事前：新聞記事の閲覧 事後：webから情報を得る		講義60分、応答30分	
2	題材としての新聞論調の解説、および実例に触れる。①社会 *新聞を購読していなくても実践できる内容としている。					事前：新聞記事の閲覧 事後：webから情報を得る		講義30分、演習60分	
3	題材としての新聞論調の解説、および実例に触れる。②政治 *は同じ。					事前：新聞記事の閲覧 事後：webから情報を得る		講義30分、演習60分	
4	新聞コラム・記事を読み、論議する／ガイダンス *は同じ。					事前：新聞記事の閲覧 事後：webから情報を得る		講義30分、演習60分	
5	新聞コラム・記事を読み、論議する／47地方紙 *は同じ。					事前：新聞記事の閲覧・採取 事後：意見交換の復習		講義30分、演習60分	
6	新聞コラム・記事を読み、論議する／全国紙① *は同じ。					事前：新聞記事の閲覧・採取 事後：意見交換の復習		講義30分、演習60分	
7	新聞コラム・記事を読み、論議する／全国紙② *は同じ。					事前：新聞記事の閲覧・採取 事後：意見交換の復習		講義30分、演習60分	
8	新聞コラム・記事を読み、論議する／地域紙 *は同じ。					事前：知識紙からの記事採取 事後：新聞情報収集の復習		講義30分、演習60分	
9	動画視聴による情報・実情の収集とテーマ論議／第1回					事前：webから情報を得る 事後：意見交換の復習		視聴45分、演習45分	
10	新聞社説・論説を読み、論議する／ガイダンス *は同じ。					事前：新聞社説・論説の閲覧 事後：webから情報を得る		講義30分、演習60分	
11	新聞社説・論説を読み、論議する／47地方紙 *は同じ。					事前：社説論説の閲覧・採取 事後：意見交換の復習		講義30分、演習60分	
12	新聞社説・論説を読み、論議する／全国紙 *は同じ。					事前：社説論説の閲覧・採取 事後：意見交換の復習		講義30分、演習60分	
13	動画視聴による情報・実情の収集とテーマ論議／第2回					事前：webから情報を得る 事後：意見交換の復習		視聴45分、演習45分	
14	新聞社説・論説を読み比べ、論議する					事前：社説論説の閲覧・採取 事後：読み比べの復習		講義30分、演習60分	
15	まとめの講義と、授業内最終課題の実施。					事前：社説論説、読解の復習 事後：全体の復習		講義45分、課題45分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。必要な素材についてはその都度コピーを配布。					授業において適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授業参加・発表状況 (40%)、レビュー評価 (40%)、定期課題 (20%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授業内容でも触れたように、この授業は新聞論調を題材にするが、新聞を購読していない学生、日ごろ新聞を読まない学生も対象にしており、充分対応できるようになっている。webを通じて収集するのを基本としているためである。*就活やインターンにも役立つので、面接対策にも利用できる。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	データサイエンス入門 (Introduction to Data Science)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井上 明也・山本 美紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	コンピュータ室以外で開講する授業では、EXCELが使用可能なノートパソコンを用意すること							
<p>授業概要：</p> <p>ビッグデータや人工知能 (AI) 技術の活用領域は急速に拡大しており、デジタル社会の基礎知識として、データサイエンスや AI に関する知識、技術を習得することが望まれている。本講義では、データサイエンスを学ぶために必要な基礎知識であるデータ処理技術の習得を目指す。合わせて、データサイエンスや AI によって社会やビジネスで起きている変化について学ぶとともに、データを利活用する上での留意事項について学ぶ。本講義では、サンプルデータによる演習課題を通してデータ処理技術とその活用法を学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>データを扱うための基本処理、グラフ化を始めとする可視化処理、データの加工処理、関数やプログラミングによるデータ算出処理など、データ処理・分析のために必要となる表計算ソフトの基本操作から高度な活用法までの習得を目指す。合わせて、社会の変化を理解するとともに、データ利活用における留意点を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、データサイエンス関連技術動向 データサイエンスの概要と関連動向					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講 義	
2	データの種類と意味、表計算ソフトの基本操作 データの分類と定義、表計算ソフトの基本操作と作表の基礎					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
3	数式と基本関数の利用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
4	絶対/相対参照を活用したデータ算出処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
5	グラフの作成の基本操作と書式変更処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
6	分析目的に適した作表・グラフ化、書式変更処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
7	複数のデータシートを活用したデータ処理法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
8	高度な関数の利用によるデータ管理表の作成					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
9	表形式による高度なデータの可視化・分析					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
10	分析目的に適したデータの抽出・加工処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
11	クロス集計によるデータ分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
12	分析目的に適した高度なグラフ化処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
13	プログラミング (マクロ) によるデータ分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
14	データ利活用における留意点 公開データを活用したデータ加工・分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
15	まとめ、総合演習問題					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
<p>教本：</p> <p>講義初回のガイダンスで指示する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>講義内で指示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 演習課題・レポート等 (100%) で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	データサイエンスの統計学 (Statistics for Data Science)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	EXCELが使用できるノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、データ分析を専門とするデータサイエンティストという職種が着目されているが、統計学はデータサイエンティストだけでなく、一般のビジネスパーソンにとっても必要な基礎知識である。本講義では、統計学の基礎知識とサンプルデータによる演習課題を通してその活用方法を学ぶ。									
授業目標： 統計学の基礎知識を学ぶことにより、データを分析・理解するための基礎能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、統計学の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	統計学で用いる用語、基本統計量					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
3	ヒストグラム、パレート図					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
4	分散と標準偏差 基準値と偏差値					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
5	相関分析					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
6	確率変数と期待値-1					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
7	確率変数と期待値-2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
8	正規分布					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
9	母集団と標本					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
10	区間推定-1					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
11	区間推定-2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
12	母平均の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
13	母分散・母比率の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
14	有意差検定-1-等平均仮説の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
15	有意差検定-2-母比率の有意差検定 まとめと活用事例					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
教本： 講義初回のガイダンスで指示する。					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	データサイエンス I (Data Science I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	EXCEL が使用できるノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、ビッグデータやデータサイエンティストというキーワードが着目されているが、その本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかにも有効に活用することができるかが重要なポイントである。本講義では、データサイエンスに関連する技術動向について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要な基礎技術とその活用法を学ぶ。									
授業目標： どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。複数の要因を考慮した分析が必要な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、データサイエンス関連技術動向、データサイエンスの概要と関連動向					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
2	データ分析の基礎 可視化によるデータ分析と回帰分析の基礎					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
3	重回帰分析-1 複数の要因分析と予測を目的とした重回帰分析とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
4	重回帰分析-2 複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
5	重回帰分析-3 複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
6	判別分析-1 機械学習に活用される判別分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
7	判別分析-2 複数のサンプルデータを用いた判別分析の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
8	数量化理論 I 類-1 定性的なデータを説明変数（要因）とする回帰分析手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
9	数量化理論 I 類-2 複数のサンプルデータを用いた数量化理論 I 類の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
10	数量化理論 II 類-1 定性的なデータを説明変数（要因）とする判別分析手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
11	数量化理論 II 類-2 複数のサンプルデータを用いた数量化理論 II 類の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
12	複数の手法を組み合わせた分析 重回帰と数量化理論 I 類混合モデルとその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
13	ロジスティック回帰分析 機械学習に活用される代表的な分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
14	実データ演習 公開データの入手、分析、評価、考察					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
15	最終課題 これまでに学んだ手法を活用した最終課題の実施					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	データサイエンスⅡ (Data Science Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	EXCEL が 使 用 可 能 な ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と							
授 業 概 要 :									
データサイエンスの本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかにも有効に活用することができるかが重要なポイントである。本講義では、ビジネス課題への活用法と留意点について学ぶとともに、ビジネスへの適用事例である演習課題を通して、データ分析技術とその活用法を学ぶ。また、課題解決のために必要となるデータの選定、調査法も演習を通して学ぶ。									
授 業 目 標 :									
現実の課題に対して、分析に必要なデータの選定と入手方法の検討から、分析の実行、分析結果の評価、という一連の流れを理解する。具体的な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、ビジネスにおけるデータ分析の処理概要 ビジネスにおけるデータ分析処理の流れとその概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
2	ビジネスにおけるデータサイエンスの基本コンセプト ビジネスにおけるデータサイエンスの処理プロセスと留意点					事前：前回の資料を復習する 事後：資料を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
3	予測のためのビジネスデータ分析 予測のためのビジネスデータ分析手法とその評価法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
4	CS ポートフォリオ分析 商品に対する顧客の満足度を調査する分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
5	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-1 商品開発に活用される代表的な分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
6	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-2 ビジネスデータを用いた演習により、活用法を習得する。					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
7	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-3 ビジネスデータを用いた演習により、活用法を習得する。					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
8	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-4 ビジネスデータを用いた演習により、活用法を習得する。					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
9	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-5 ビジネスデータを用いた演習により、活用法を習得する。					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
10	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-6 ビジネスデータを用いた演習により、活用法を習得する。					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
11	データサイエンスによる課題解決演習-1 課題の選定と問題設定					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
12	データサイエンスによる課題解決演習-2 調査票の作成					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
13	データサイエンスによる課題解決演習-3 調査の実施とデータの整理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
14	データサイエンスによる課題解決演習-4 分析の実施					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
15	データサイエンスによる課題解決演習-5 分析結果のプレゼンの実施					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義 15 分 演習 75 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
指定しない					講義内で指示する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
演習課題・レポート等 (100%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	データ処理 (Data Processing)						科目分類	基礎科目 (メディア以外) 専門科目 (メディア)	
担 当 教 員	井上 明也・金 宰郁・山本 美紀								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎/情報処理概論							
	その他	※「学生へのアドバイス」参照							
授業概要： 主に表計算ソフトを利用して、コンピュータにおけるデータ処理・分析について学習する。									
授業目標： 表計算ソフトの操作に習熟し、表やグラフのデータ表現や関数等を利用したデータ処理・分析の手法を身につけることが本講義の目標となる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	シラバスの確認、データの種類とデータ処理・分析の概説				事前：シラバスを読む 事後：PC操作の復習			講義 60分、演習 30分	
2	表計算ソフトの基本操作と作表の基礎				事前：ファイル形式について調べる 事後：作表課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
3	数式と基本関数の利用				事前：基本関数について調べる 事後：関数利用課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
4	数式と絶対/相対参照				事前：参照について調べる 事後：複合参照課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
5	グラフの作成				事前：グラフの種類について調べる 事後：グラフ課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
6	表示形式の設定				事前：表示形式について調べる 事後：ユーザ定義表示形式課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
7	複数シートの操作				事前：シートの操作について調べる 事後：複数シート課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
8	高度な関数の利用				事前：様々な関数について調べる 事後：関数課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
9	条件付き書式				事前：条件付き書式について調べる 事後：条件付き書式課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
10	データベースの利用				事前：データベースについて調べる 事後：データベース課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
11	ピボットテーブル				事前：ピボットテーブルについて調べる 事後：ピボットテーブル課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
12	高度なグラフの作成				事前：複合グラフについて調べる 事後：高度なグラフ課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
13	マクロの利用				事前：マクロについて調べる 事後：マクロ課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
14	外部データの利用				事前：データの取り込みについて調べる 事後：外部データ課題を完成する			講義 45分、演習 45分	
15	まとめ、総合練習問題				事前：総合練習問題を練習する 事後：総合練習課題を完成する			講義 60分、演習 30分	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内での演習及び小テスト (50%)、提出課題 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： やむを得ず欠席した場合は、必ず担当の先生に指示を仰ぐようにして下さい。3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となります。また、適時バックアップを取るよう to して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	データマイニング (Data Mining)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	EXCEL が 使 用 可 能 な ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と							
授 業 概 要 :									
「データマイニング」とは多量のデータから新たな知見・知識を得ることを意味する。「マイニング」とは「採鉱」であり、語源の通り鉱山から金鉱を掘り当てるといった行為に似た作業である。本講義では「データマイニング」とはなにか、その実現技術とはどのようなものかを学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要な基礎技術とその活用法を学ぶ。									
授 業 目 標 :									
どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。原因（要因）と結果の関係を明らかにする基本的な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、データマイニングとは データマイニングの登場、発展の背景と現状について理解する					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講 義	
2	データ分析のための EXCEL の基本操作 データ分析に必要な EXCEL の基本的な使用方法を理解する					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60 分 演 習 30 分	
3	データ分析の基礎 1 分析目的に適したデータのグラフ化、可視化手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
4	データ分析の基礎 2 基本統計量とヒストグラムによる分析方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
5	データ分析の基礎 3 パレート図によるデータ分析方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
6	データ分析の基礎 4 クロス集計データの分析方法、相関係数の意味理解と算出方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
7	データ分析の基礎 5 単回帰分析の意味理解と単回帰式の算出方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
8	データ分析演習 1 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
9	データ分析演習 2 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
10	データ分析演習 3 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
11	データ分析演習 4 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
12	データ分析演習 5 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
13	データ分析演習 6 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
14	実データ演習 公開データの入手、分析、評価、考察					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60 分 演 習 30 分	
15	最終課題 これまでに学んだ手法を活用した最終課題の実施					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30 分 演 習 60 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
指定しない					講 義 内 で 指 示 す る				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
演習課題・レポート等 (100%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	データモデリング (Data Modeling)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	山本 美紀								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	ノートパソコンを用意すること。							
授業概要： この授業では、データモデリングの枠組みについて学び、社会にあふれている膨大なデータを一定のルールに基づいて整理し、価値ある情報にするためのデータモデリングの手法を身に付けます。また、データベースを操作するためのSQLの基礎を学び、実際に、データモデリングによってデータベースを構築することを目指します。									
授業目標： ①データベースモデリングとは何か、システム開発のプロセスに対応づけて説明できる。 ②概念データモデリング、論理データモデリング、物理データモデリングで用いる手法について説明できる。 ③SQLを用いてデータベースの基本操作ができる。 ④社会のある事象に注目して、実際にデータモデリングを行い、自分の知りたい情報を得ることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 データベースモデリングとは何か、について学ぶ。				事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク（10分） 講義（80分）	
2	データベースとリレーショナルデータベースについて学ぶ。				事前：DBの種類を調べる 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
3	概念データモデリング (1) エンティティと属性について学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
4	概念データモデリング (2) ERモデルについて学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
5	論理データモデリング (1) 正規化について学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
6	論理データモデリング (2) テーブルとビューについて学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
7	物理データモデリング (1) 非正規化について学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義・演習（60分） 小テスト（30分）	
8	物理データモデリング (2) インデックスと領域について学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
9	SQLによる演習 (1)① データベースの作成と削除、② テーブルの作成と削除、更新について学ぶ。				事前：SQLについて下調べ 事後：SQLの演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
10	SQLによる演習 (2)① 主キーと外部キーの制約、② レコードの追加と削除、更新について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：SQLの演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
11	SQLによる演習 (3) SELECT文の基本構文について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：SQLの演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
12	期末課題：概念データモデリングを行う。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
13	期末課題：論理データモデリングを行う。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
14	期末課題：物理データモデリングを行う。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題を完成させ、期限までに提出する			講義（30分） 演習（60分）	
15	まとめと学びの振り返りを行う。 データベースとプログラムを連携した事例について紹介する。				事前：学習ポートフォリオ整理 事後：学びの振り返り			講義（60分） グループワーク（30分）	
教本： 指定しない。 必要に応じて授業内で資料等を配布する。					参考文献： 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等）：60%、小テスト：10%、期末課題：30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： この授業では、データモデリングの基礎的な知識を学ぶだけでなく、積極的に演習を行って、データモデリングのセンスを身に付けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタル技術と産業 I (Digital Technology and Industry I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本講義の目的は、観光学領域の基礎的な知識を修得し、観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深め、観光産業の振興を図る創造的な能力と態度を育てることにある。そのために、「学術的な観光学の枠組」・「旅行者行動の分析手法」「新たな観光産業の形態」について講義をする。特に、観光現象の「複雑性」・「学際性」を論ずることにより、「観光現象（観光産業を含む）のシステムの理解」を促す基礎的知識を提示する。									
授業目標： (1) 観光学の枠組みを理解する。 (2) 観光産業の特性を理解する。 (3) 社会のデジタル化に対する観光産業への応用の基礎（システム化への基礎的知識）を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90分	
2	「需要・移動・供給」における観光産業の特性と分類（観光学における関連性に関して）(Leiper(1990))					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
3	観光学の枠組みにおける観光産業の位置づけとその他の領域（観光学領域以外）との関連性（Morley(1990)を中心に）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
4	Origin（潜在的観光客）と Destination（目的地）の学術的関係性（Mill and Morison(1985)）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
5	「観光行動の特性」と「観光商品の特性」：纏めと情報化への道筋					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
6	「潜在的観光客の動機づけ」の枠組と体系的					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
7	「観光客の動機づけ」：Push factor（発動要因）と Pull factor（誘因要因）の概説					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
8	Push factor（発動要因）と Pull factor（誘因要因）の具体的内容とその関係性：観光現象の情報学的説明への応用					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
9	旅行者行動の時系列的分析の基礎					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
10	観光商品の購入に関する「意思決定モデル」の概説					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
11	観光商品の購入に関する「意思決定モデル」の研究成果と今後の課題					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
12	観光商品計画の時系列的理解（供給と需要の相互関係性）：仮説的枠組みの紹介					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
13	観光商品計画の時系列的理解（消費者行動論の意味とその応用、特に「観光商品への期待」に関して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
14	観光産業のデジタル化への道筋：「観光学」の貢献しうる領域とその限界性					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10分、講義 80分	
教本： 必要に応じプリントを配布する。					参考文献： 適時指定する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 多様性を有する観光産業を体系的に記述することを心掛け、基礎的内容を具体的に丁寧に説明します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	デジタル技術と産業Ⅱ (Digital Technology and Industry Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と							
授 業 概 要 :									
近年、インターネット、モバイル環境などの ICT、ビッグデータ、AI などのデジタル技術の進化により、ビジネスにおいて収益を上げる仕組みは、多様化、変化が加速している。本講義では、AI を中心とした最新の技術動向の概要を学ぶとともに、ビジネスの構造と収益を向上させる仕組みの観点から、ビジネスを分析する基礎技術とその活用法を、講義、演習、プレゼンテーション、反転授業により学ぶ。									
授 業 目 標 :									
AI を中心としたデジタル技術の進化がビジネスに与える影響を考慮して、ビジネスの構造を理解し、収益を向上させる仕組みの作り方を理解することを目的とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ビジネスモデル理解の基礎Ⅰ シラバスの説明とロジカルシンキングについて学ぶ					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	ビジネスモデル理解の基礎Ⅱ ビジネス分析のためのフレームワークについて学ぶ					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	ビジネスモデル理解の基礎Ⅲ 戦略と戦略策定のフレームワークについて学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
4	ビジネスに影響を与える技術動向 DX、AI の概要とビジネスへの影響について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
5	ビジネスモデルとは ビジネスモデルの基礎知識について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：講義内容と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
6	ビジネスモデルの紹介 1 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義 20 分 プレゼン 70 分	
7	ビジネスモデルの紹介 2 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義 20 分 プレゼン 70 分	
8	ビジネスモデルの紹介 3 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義 20 分 プレゼン 70 分	
9	ビジネスモデルの紹介 4 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義 20 分 プレゼン 70 分	
10	ビジネスモデルの紹介 5 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義 20 分 プレゼン 70 分	
11	ビジネスモデルの紹介 6 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義 20 分 プレゼン 70 分	
12	ビジネスモデルの紹介 7 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義 20 分 プレゼン 70 分	
13	ビジネスモデルの紹介 8 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義 20 分 プレゼン 70 分	
14	ビジネスモデルの作り方 ビジネスモデルの基本的な考え方と作成方法について学ぶ					事前：提案するビジネス領域の調査 事後：提案モデルを検討する		講義 60 分 演習 30 分	
15	最終課題の発表とまとめ 各自の最終課題の検討結果のプレゼンテーションとまとめ					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義 10 分 プレゼン 80 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『この一冊で全部わかる ビジネスモデル 基本・成功パターン・作り方が一 気に学べる』、¥1,760					講義内で指示する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
レポーター課題・プレゼンテーション等 (100%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタル社会とコミュニケーション (Digital Society and Communication)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	PCを持参の上、参加してください。							
授業概要： 本講義は、社会とりわけ情報社会を理解した上で、コミュニケーション技術の基礎とそれに関わる社会現象上の諸問題を、多角的に理解する。また、企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でのコミュニケーションについて、議論により理解を深める。PC上のコミュニケーションツールを利用して、ディスカッションを行います。									
授業目標： 現代社会のコミュニケーションについて、コミュニケーション技術の基礎を理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（産業社会とメディアの変容）					事前：なし 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
2	「メタバース空間とアバター」メタバースに入室し、メタバース空間の中でコミュニケーションをとります。					事前：精読①（115-124） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
3	「対人コミュニケーションの不確定性」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（115-124） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
4	「選択される情報と現実」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（125-137） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
5	「技術の進歩と社会の適応問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（138-147） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
6	「情報の格差問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（148-158） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
7	「生活世界と情報モラル」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（159-168） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
8	「ネット世界の人間関係」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（169-180） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
9	「情報社会のなかの人間」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読①（181-190） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
10	「コミュニケーション学とは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読②（1-28） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
11	「関係の中で生きること」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読②（29-46） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
12	「記号をなすこと」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（47-66） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
13	「意味の歩み」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（67-96） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
14	「技術革新と技術仕様」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（97-120） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
15	「情報の開かれとコミュニケーションの閉じ」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（121-152） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
教本： ①『情報社会とコミュニケーション技術』（明石書店） ②『コミュニケーション学講義』（書籍工房早山）					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず事前にテーマについて調査の上、参加するようにしてください。また、PCを用意の上、参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	デジタル社会と人間 (Digital Society and Human Beings)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>講義においてはデジタル社会を必ずしも自明なものと看做さず、アナログ社会をも含めた視座から、人間と社会に関する理論を俯瞰する。そのうえで、履修者が各々考察を加え、意見を提起してもらいたい。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>デジタル・アナログを問わず、社会における人間の在り方とそれに附随する諸問題をトータルに把握することを目指す。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態
1	講義の導入：「デジタル社会と人間」概説					事前：講義に臨む準備をする。 事後：講義内容を纏める。			講義 90分
2	〈欠陥動物〉としての人間と制度・文化 Arnold Gehlen と哲学的人間学					事前：Gehlen について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
3	〈システム〉による「複雑性の縮減」効果 Niklas Luhmann とシステム論					事前：Luhmann について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
4	デジタル社会においては伝統的教養が不要となるか Pierre Bourdieu と文化社会学 ①					事前：Bourdieu について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
5	デジタル社会は階層格差を解消するか Pierre Bourdieu と文化社会学 ②					事前：「文化資本」について調べる。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
6	デジタル社会において〈公正〉は可能か John Rawls の Liberalism と正義論 ①					事前：Rawls について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
7	デジタル社会において〈公正〉は可能か John Rawls の Liberalism と正義論 ②					事前：AA について調べる。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
8	デジタル社会は〈自由〉を保障しうるか Libertarian の人間観と社会観 ①					事前：Libertarianism 概念について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
9	デジタル社会は〈自由〉を保障しうるか Libertarian の人間観と社会観 ②					事前：Libertarianism の諸態様について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
10	デジタル社会における〈共同〉 Communitarian の人間観と社会観 ①					事前：Communitarianism 概念について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
11	デジタル社会における〈共同〉 Communitarian の人間観と社会観 ②					事前：Communitarianism の諸態様について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
12	デジタル社会と自己決定権 法学上の Paternalism とその正当化事由					事前：Paternalism について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
13	デジタル社会と自己決定権 臓器提供意思表示方式の事例から					事前：臓器移植について調べる。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
14	デジタル社会と自己決定権 行動経済学・「nudge 理論」に対する批判的考察					事前：「nudge 理論」について調べる。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分
15	講義の総括と展望					事前：これまでの講義内容を纏める。 事後：試験の模範解答を作成する。			講義 90分
教本： 特に定めない。講義に際してはレジユメを配布する。					参考文献： 必要に応じて教場にて紹介する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）の成績による。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪い、「不可」の評価が下される。なお、履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	デジタル社会論 (Digital Society)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
デジタル社会という言葉が広く使われています。しかし、その実際の姿はどのようなものなのでしょうか？この講義では、最近のデジタル社会の議論に触れながら、その社会について様々な角度から考察を試みます。後半は社会学の視点から、デジタル社会とそれ以前の社会を比較分析する視点を養い、幅広くデジタル社会に関わるための見識を身に付けます。									
授 業 目 標 :									
① デジタル社会の様相について多角的に分析できる。									
② 社会学の視点からデジタル社会とそれ以前の社会を比較できる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：なぜ「デジタル社会」を学ぶか？					事前：各自の関心を高める 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
2	日本における「デジタル社会論」：最近の議論とその限界					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
3	デジタル技術・デジタル化の特徴 ①					事前：教科書指定箇所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
4	デジタル技術・デジタル化の特徴 ②					事前：教科書指定箇所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
5	デジタル技術の社会への当てはめで何が起るか ①					事前：教科書指定箇所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
6	デジタル技術の社会への当てはめで何が起るか ②					事前：教科書指定箇所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
7	ミニ・プレゼンテーション					事前：プレゼン準備 事後：指摘箇所確認		対話式 90分	
8	従来の社会的相互作用の姿（伝統的社会、工業化社会等）					事前：教科書指定箇所学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
9	デジタル社会の社会的相互作用：自己、シンボル、ドラマ化 ①					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
10	デジタル社会の社会的相互作用：自己、シンボル、ドラマ化 ②					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
11	情報とデジタル社会：フェイクニュース等					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
12	ミニ・プレゼンテーション					事前：プレゼン準備 事後：指摘箇所確認		対話式 90分	
13	AIとデジタル社会 ①					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
14	AIとデジタル社会 ②					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
15	まとめ					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『「デジタル社会」とは何か』（学習の友社） ¥1,760					『超デジタル世界』（岩波新書） ¥840				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
教 科 書 は 前 半 の 講 義 に 使 い ます 。 購 入 し ない 場 合 、 受 講 は 控 え て く だ さ い (参 考 文 献 も 、 で き れ ば 参 照 し て お く と 知 識 が 増 え ます 。 や や 雑 学 的 は あ り ま す が 重 要 な 知 見 も あ り ます) 。 後 半 は 、 講 義 で の 配 布 物 、 視 聴 覚 教 材 等 で 進 行 し ます 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ます 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	デジタルとエンターテインメント産業 (Digital Game Industry)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	真保 安一郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 日本のゲーム産業の誕生から現在までの経緯を通じて、ゲームの歴史とその変遷を理解します。 ・11回からはゲームの成長とコミック・アニメ等の他のメディアとの提携を通じてデジタル産業の拡大について学びます。 ・15回はゲームのプロジェクトの立ち上げ方についての序章となっています。									
授業目標： ゲーム産業の成り立ちを理解し、日本におけるゲーム産業の立ち位置を他のメディアとの関わりの中で認識する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ゲーム産業の歴史01:概観を講師のキャリアとともに振り返る。自分のゲーム経験をもとに、クラスのゲームに対する共通体験を認識する。					事前:自分のゲーム体験を振り返っておきましょう 事後:ゲーム産業の歴史における自分の立ち位置を200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
2	ゲーム産業の歴史02:米国のアタリショックと日本のアーケード スーパーマリオ誕生までの産業史的な流れを学び、当時の技術のレベルを認識する。					事前:80年代前半の北米のゲーム産業を調べておく 事後:スーパーマリオ誕生の世界史的な流れを200字でまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
3	ゲーム産業の歴史03:ファミコンが爆発的に売れた時、業界内では何があったのか。スーパー・ファミコンの登場が社会になにをもたらしたのかを学ぶ。					事前:ファミコンの代表的なタイトルを調べておく 事後:スーパーファミコンにおける任天堂の戦略を200字でまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
4	ゲーム産業の歴史04:95年とは何だったのか? PC ノベルゲームの終焉。95年の世界史的な位置付けを学ぶ。					事前:95年のIT情勢を調べておく 事後:インターネット登場の影響を200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
5	ゲーム産業の歴史05:セガとソニー その他のハードの乱立。群雄割拠となった各社のハード戦略を学ぶ。					事前:セガのハード、ソニーのプレステについて調べる 事後:各社のハード戦略について200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
6	ゲーム産業の歴史06:任天堂 VS SONY 2強時代へ。現在まで続くハードメーカーの戦略について学ぶ。					事前:任天堂のハードについて調べる 事後:任天堂のハードの歴史について200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
7	ゲーム産業の歴史07:モバイルゲームの台頭 モバゲー対GREE ガチャ規制など、ゲーム業界の大きな変革期の背景と影響について学ぶ。					事前:2010年前後のモバイルゲームについて調べる 事後:携帯ゲームの当時の社会への影響を200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
8	ゲーム産業の歴史08:スマホネイティブアプリの間 バズドラとモンハン 日本の敗北。スマホネイティブ・アプリとは何か。それまでとどう違ったのかを学ぶ。					事前:スマホ・アプリに関する自分の体験を振り返っておく 事後:現在の世界的な情勢・今後の展開を200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
9	ゲーム産業の歴史09:e-sportsとSteam 配信コンテンツの時代。現代世界を席巻している Steam と日本では遅れ気味の e-sports に関して知見を深める。					事前:現在の Steam の世界情勢を調べておく 事後:将来の展開を200字で予想する		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
10	ゲーム産業の歴史10:女性向けゲーム 恋愛ゲーム概論。一つのジャンルとして成立した女性向けゲームの特殊性と、ジャンル分けについて学ぶ。					事前:女性向けゲームについてどんなものがあるか調べておく 事後:何が特殊でどう違うのかを200字でまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
11	ゲームにおけるメディア連携01:どうして連携は必要だったのか?日本のエンターテインメント全体を俯瞰して、ゲームの位置付けと連携について学ぶ。					事前:ゲームにおける他メディアとの連携例を調べておく 事後:なぜ必要だったのかを200字でまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	

12	ゲームにおけるメディア連携02：IPとキャラクター・グッズ、CD、主題歌他。エンターテインメントのあらゆる方向に拡張していくゲームIPの姿を把握する。	事前：自分でもっているグッズ等を振り返っておく 事後：IPがどのように訴求していくのか200字にまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
13	ゲームにおけるメディア連携03：アニメ化、映画化、イベント事業。もっとも大きなメディアミックスといわれるアニメ、映画の映像化に関してその是非をディスカッションする。	事前：自分で見たことのあるゲーム関連アニメを調べておく 事後：成功例となった要因を200字でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
14	ゲームにおけるメディア連携04：プレイ動画、Vtuber、Youtuberの時代へ。現在隆盛を極める、Tuber系のメディアにおけるゲームの位置付けと役割をディスカッションする。	事前：何本かゲームのプレイ動画を視聴しておく 事後：今後の発展可能性を200字でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
15	ゲームの作り方 序章：ゲームを起ち上げる。ゲームを作り始めるには、まず何をどうすればいいか、講師の経験をもとにディスカッションを行い、半期のゲームの授業を振り返る。	事前：自分で作るならどのようなゲームがいいか考えておく 事後：半期の授業の感想を250字でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
教本： なし		参考文献： なし	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（70%）、小テスト・レポート等（30%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 日本が誇るゲーム産業の歴史を、ゲーム業界で35年間、実際に開発をしてきた講師の体験と知識に基づき学んでいきます。11回からは各種メディアとゲームの連携。最後はゲームの作り方にふれる予定です。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	デジタル認証技術基礎 (Basic Digital Authentication Technology)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	金 宰 郁									
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>現代社会においてデジタル認証技術は、情報システムや情報資産を維持・管理するために、さまざまな危険・脅威から保護するか定め運用・管理する一連のプロセスのことを言う。この授業では情報セキュリティ対策を実施するうえで、どのような情報をどのように保護していくかを定めた基本方針のことを学習しながらデジタル認証技術基礎を習得する。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>1. インターネットに代表されるデジタル認証技術、情報通信技術の現状を理解し、情報化社会における情報セキュリティ、知的財産権、個人情報保護等について幅広く学ぶ。2. デジタル認証処理の基礎技術を学び、その応用力を身につける。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	ガイダンス、授業科目名であるデジタル認証について説明し、確認をする。				事前：教科書の準備をする。 事後：認証関連書を調べる。			講義 80分、ディスカッション 10分		
2	デジタル認証技術において数学的準備である情報（数値データ）のデジタル化を説明し、数値データ表現の課題を行う。				事前：n 進数について調べる。 事後：数値データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
3	デジタル認証技術において数学的準備である情報（文字データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：文字データを調べる。 事後：文字データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
4	数値、文字データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。				事前：バイナリデータを調べる。 事後：バイナリデータを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
5	デジタル認証技術において数学的準備である情報（画像データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：画像データを調べる。 事後：画像データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
6	デジタル認証技術において数学的準備である情報（音声データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：音声データを調べる。 事後：音声データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
7	画像、音声データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。				事前：RGB, CMYKを調べる。 事後：RGB, CMYKを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
8	情報セキュリティにおけるデジタル認証技術の概要、動向、及び次世代デジタル認証技術を説明し、課題を行う。				事前：認証技術について調べる。 事後：デジタル認証技術の概要、動向を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
9	デジタル認証技術であるメッセージ認証子（MAC）について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：MACについて調べる。 事後：MACを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
10	デジタル認証技術であるハッシュ（Hash）について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：ハッシュ値を調べる。 事後：ハッシュ値を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
11	デジタル認証技術であるデジタル署名について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：デジタル署名を調べる。 事後：デジタル署名を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
12	デジタル認証技術である多要素認証について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：多要素認証を調べる。 事後：多要素認証を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
13	デジタル認証技術である生体認証について説明し、映像を見ながらディスカッションを行い、その課題を行う。				事前：生体認証を調べる。 事後：生体認証を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分		
14	インターネット社会の情報セキュリティインターネット事件の最近の事例を説明し、それについてディスカッションを行う。				事前：情報セキュリティ事件の事例を調べる。 事後：事例を纏める。			講義 60分、ディスカッション 30分		
15	デジタル認証技術について纏める。デジタル認証技術の授業科目について感想を発表する。				事前：全資料を下読みする。 事後：発表の振り返り。			講義 50分、発表 40分		
教本： なし					参考文献： なし					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、課題（40%）、発表（20%）等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス： 初回の授業に必ず出席すること。認証技術の基礎知識（定義）を事前に調べること。</p>										
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	デジタルビジネスモデル論 (Digital Business Model)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代社会における職業は、情報によるDXやAI経営が進められており、今までのビジネスモデルを理解するとともに、これからのビジネスモデルまでも理解する必要が出てくる。それらビジネスモデルについて、知見を得るとともに、議論により理解を深める。									
授業目標： デジタルビジネスモデルを理解し、デジタルトランスフォーメーションDXやAI経営に対する考え方を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	次世代企業の構築（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）					事前：精読①（14-38） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
2	デジタル化がもたらす脅威と事業機会（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）					事前：精読①（40-60） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
3	企業の未来のデジタルビジネスモデル（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）					事前：精読①（62-97） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
4	デジタル競争優位を生み出すもの（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）					事前：精読①（100-144） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
5	モバイルやIoTを使ってどのようにつながるか（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）					事前：精読①（146-194） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
6	AI経営とは何か（グループディスカッション、発表）					事前：精読②（26-61） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
7	AI経営の5つのレベル（グループディスカッション、発表）					事前：精読②（64-81） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
8	そもそもAIとは何か（グループディスカッション、発表）					事前：精読②（86-97） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
9	AI経営に必要なBXT思考（グループディスカッション、発表）					事前：精読②（99-126） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
10	AI経営を実践する6つのステップ（グループディスカッション、発表）					事前：精読②（128-201） 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
11	ビジネスモデルナビゲーターから選び事例調査、発表、ディスカッション					事前：事前調査 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
12	ビジネスモデルナビゲーターから選び事例調査、発表、ディスカッション					事前：事前調査 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
13	ビジネスモデルナビゲーターから選び事例調査、発表、ディスカッション					事前：事前調査 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
14	企業選定、ビジネスモデル調査					事前：事前調査 事後：発表準備		選定 45分 調査 45分	
15	ビジネスモデル発表					事前：発表準備 事後：振り返り		発表 90分	
教本： ①『デジタル・ビジネスモデル』（日本経済新聞出版社） ②『『AI経営』の教科書』（東洋経済新報社）					参考文献： 『ビジネスモデルナビゲーター』（翔泳社）				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ビジネスモデルを中心に考察、議論していきます。事前準備をしっかりとってから臨んでください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	哲学 (Philosophy)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即しトータルに把握できるよう講義を進めたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>講義「哲学」では、古代から中世へ至る哲学史の系譜をたどり、〈存在論〉の生成と構造を明らかにすることを旨とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	予備考察：哲〈学〉と哲〈学史〉の相同について考察する。					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
2	【古代哲学】 存在・「ある」とはどのようなことか： ミレトス学派の〈アルケー〉論を紹介する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
3	生成「ある」と「なる」： エレア学派とヘラクレイトスの相違を明らかにする。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
4	ピュタゴラス学派の〈数〉概念を分析する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
5	多元論・原子論に関する理解を促す。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
6	ソフィストの営為とその特徴を俯瞰する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
7	ソクラテスによるソフィスト批判について吟味する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
8	プラトン〈イデア〉論の特質を浮き彫りにする。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
9	アリストテレス形而上学①について検討する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
10	アリストテレス形而上学②について検討する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
11	【中世哲学】 信仰と知は両立するか： 中世教父哲学における神概念と人間像①を考察する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
12	中世教父哲学における神概念と人間像②を考察する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
13	普遍が先か個物が先か：〈普遍論争〉について詳述する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
14	スコラ哲学の論理①を学ぶ。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
15	スコラ哲学の論理②を学ぶ。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>なし。毎講義時にレジメ（プリント）を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私が提供するものは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>木曜日昼休み。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	哲学Ⅰ (Philosophy Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	「哲学Ⅱ」を次学期以降に必ず履修すること。							
<p>授業概要：</p> <p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即しトータルに把握できるよう講義を進めたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>講義「哲学Ⅰ」では、古代から中世へ至る哲学史の系譜をたどり、〈存在論〉の生成と構造を明らかにすることを旨とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	予備考察：哲〈学〉と哲〈学史〉の相同について考察する。					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
2	【古代哲学】存在・「ある」とはということか： ミレトス学派の〈アルケー〉論を紹介する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
3	生成「ある」と「なる」： エレア学派とヘラクレイトスの相違を明らかにする。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
4	ピュタゴラス学派の〈数〉概念を分析する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
5	多元論・原子論に関する理解を促す。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
6	ソフィストの営為とその特徴を俯瞰する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
7	ソクラテスによるソフィスト批判について吟味する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
8	プラトン〈イデア〉論の特質を浮き彫りにする。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
9	アリストテレス形而上学①について検討する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
10	アリストテレス形而上学②について検討する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
11	【中世哲学】信仰と知は両立するか： 中世教父哲学における神概念と人間像①を考察する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
12	中世教父哲学における神概念と人間像②を考察する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
13	普遍が先か個物が先か：〈普遍論争〉について詳述する。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
14	スコラ哲学の論理①を学ぶ。					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
15	スコラ哲学の論理②を学ぶ。					事前：レジメを熟読する。 事後：試験の準備をする。		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>なし。毎講義時にレジメ（プリント）を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私が提供するものは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>木曜日昼休み。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	哲学Ⅱ (Philosophy Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	「哲学Ⅰ」の単位を修得済みであること。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即してトータルに把握できるよう講義を進めたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>講義「哲学Ⅱ」では、近世・近代以降の哲学に焦点を据え、〈認識論〉の確立過程とその特徴について詳述する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	【近世・近代哲学】〈存在論〉から〈認識論〉へ					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
2	大陸合理論における精神・物体・神 デカルト① 「我思う、ゆえに我あり。」					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
3	デカルト② 物体の〈延長〉					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
4	イギリス経験論による事物認識 ホブズにおける〈コナトゥス〉概念					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
5	ロック① 〈タブラ・ラサ〉からの出発					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
6	ロック② 〈真知〉の限界と意義					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
7	バークリ「存在とは、知覚されてある、ということである。」					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
8	ヒューム「知覚の束」					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
9	【批判哲学とドイツ観念論】 カント『純粹理性批判』①〈コペルニクス的転回〉とは					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
10	カント『純粹理性批判』② 時間・空間は〈直観の形式〉					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
11	カント『純粹理性批判』③悟性の〈カテゴリー〉					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
12	カント『実践理性批判』における要請：〈定言命法〉					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
13	ヘーゲル『精神現象学』の視座① 存在と認識の一致					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
14	ヘーゲル『精神現象学』の視座② 哲学〈史〉の意味					事前：レジメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
15	ヘーゲルの共同体論：〈真無限〉・〈具体的普遍〉					事前：レジメを熟読する。 事後：試験の準備をする。		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>なし。毎講義時にレジメ（プリント）を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私が提供するものは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>木曜日昼休み。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	伝統文化 (Introduction to Japanese Tradition and Culture)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>日本人は、海に囲まれた島国で、四季折々の豊かな自然とともに暮らしてきました。有形、無形を問わず、世代を超えて受け継がれてきた文化がたくさんあります。本講義では、日本人の日常生活の中にある伝統文化を学んでいきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>伝統文化の知識を習得し、その背景にあるものは何か、理解を深めることを目的としています。伝統文化には、日本人のどんな気持ちが込められているのでしょうか。みなさんは、日本の伝統文化の担い手として、これから何を表現していきますか？</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：伝統文化を学ぶ必要性		講義 90分	
2	「和」の伝統文化とは何か					事前：伝統文化とは何か 事後：「和」の十七条憲法		講義 90分	
3	食の文化 ① 和菓子					事前：和菓子の種類 事後：和菓子の歴史と文化		講義 60分 グループワーク 30分	
4	食の文化 ② カレーライス					事前：洋食の種類 事後：洋食の歴史と文化		講義 60分 ディスカッション 30分	
5	食の文化 ③ 鯨					事前：鯨の料理 事後：鯨の文化		講義 60分 ディスカッション 30分	
6	折紙の文化					事前：折紙を折る 事後：折紙の歴史と文化		講義 50分 グループワーク 40分	
7	うつろ舟の伝説					事前：身近にある伝説 事後：伝説とは何か		講義 60分 ディスカッション 30分	
8	言葉とは何か					事前：大学生の言葉 事後：言葉とは何か		講義 90分	
9	こどもの遊び 「どちらにしようかな」					事前：こどもの頃の遊び 事後：手遊びの楽しさ		講義 50分 グループワーク 40分	
10	江戸時代の旅と伊勢参り					事前：江戸時代について 事後：旅は「見る」こと		講義 60分 ディスカッション 30分	
11	明治時代の改暦と鉄道の発展					事前：幕末から明治の幕開け 事後：時刻と鉄道の発展		講義 60分 ディスカッション 30分	
12	元三大師とおみくじ					事前：おみくじについて 事後：元三大師とおみくじ		講義 50分 グループワーク 40分	
13	製糸女工から見る労働者の文化					事前：大学生のアルバイト 事後：労働者の文化		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	神と神社の成り立ち					事前：神社について 事後：神と神社の成り立ち		講義 60分 ディスカッション 30分	
15	まとめ					事前：伝統文化とは何か 事後：伝統文化を学ぶ必要性		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>資料を配布するので、教科書は指定しません。</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜、指示します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（40%）、授業中の課題、定期試験（60%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>文字だけで判断するのではなく、日本文化の本質を理解するよう心がけてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回の授業で教えます。</p>									

と

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	ドイツ語Ⅰ (German I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	「ドイツ語Ⅱ」を次学期に必ず履修すること(単位を修得できなかった場合はこの限りではない)。							
授業概要： 本講は初学者を対象とし、ドイツ語の総合的な能力を習得する。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。 語学学習では出席が肝要である。定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪失、「不可」の評価が下される。なお履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。									
授業目標： 初級文法の基礎を習得し、ドイツ語技能検定試験・5級に合格するレベルへ到達する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	Das Alphabet					事前：教科書該当部分の精読 事後：文字の復習		講義 30分 演習 60分	
2	Aussprache(発音) ①					事前：教科書該当部分の精読 事後：発音の復習		講義 30分 演習 60分	
3	Aussprache(発音) ②					事前：教科書該当部分の精読 事後：発音の復習		講義 30分 演習 60分	
4	人称代名詞と不定詞・定動詞の現在人称変化/ 定動詞の位置・語順					事前：教科書該当部分の精読 事後：代名詞・動詞の用法確認		講義 60分 演習 30分	
5	sein の現在人称変化/ Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
6	名詞の性/名詞の格/冠詞の変化					事前：教科書該当部分の精読 事後：性と格変化の暗記		講義 60分 演習 30分	
7	haben の現在人称変化/ Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
8	名詞の複数形/男性弱変化名詞と例外的な名詞					事前：教科書該当部分の精読 事後：弱変化の暗記		講義 60分 演習 30分	
9	人称代名詞の3・4格/ Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
10	不規則動詞の現在人称変化/ 命令形 ①					事前：教科書該当部分の精読 事後：人称変化の暗記		講義 60分 演習 30分	
11	不規則動詞の現在人称変化/ 命令形 ②/ Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
12	不定冠詞類 (所有冠詞・否定冠詞)					事前：教科書該当部分の精読 事後：不定冠詞の用法確認		講義 60分 演習 30分	
13	定冠詞類/ Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
14	前期確認問題					事前：教科書該当部分の精読 事後：確認問題の再点検		講義 30分 演習 60分	
15	前期確認問題の解答と解説/ 定期試験対策					事前：確認問題の再点検 事後：定期試験対策準備学習		講義 30分 演習 60分	
教本： 各自、最寄りの書店で注文または出版社サイト (右欄参照) を通じて、 予め以下の2冊を必ず購入しておくこと (不所持者は出席不可)。 1. 『Deutsch mit Liebe』(朝日出版社) ¥2,860 ISBN : 978-4-255-25421-0 2. 『初級者に優しい独和辞典 増補改訂版』(朝日出版社) ¥3,080 ISBN : 978-4-255-01343-5									
参考文献： 教本・辞典のほかは特に用いない。 なお、左記教本入手先のひとつである出版社サイトのアドレスは以下の通り： 1. https://text.asahipress.com/german/detail.php?id=1621 2. https://www.asahipress.com/bookdetail_lang/9784255013435/									
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験(100%)の成績による。									
学生へのアドバイス： ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語群に属する言語である。ゆえに英語を苦手とする者がドイツ語を履修するにあたっては、相当の覚悟が求められる。単に曜日・時間の都合のみで履修選択した場合、単位の修得は極めて困難となろう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	ドイツ語Ⅱ (German Ⅱ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	金澤 秀嗣									
履 修 条 件	前提科目	前期「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済みであること(単位未修得者は履修できない)。								
	その他	なし								
授業概要： 本講は、前期「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得した者を対象とする。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。語学学習では出席が肝要である。定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪い、「不可」の評価が下される。なお履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。										
授業目標： 初級文法を十分に理解し、ドイツ語技能検定試験・4級に合格するレベルへ到達する。										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態		
1	Wiederholung					事前：教科書該当部分の精読 事後：学習した単元の復習		講義 30分 演習 60分		
2	前置詞の格支配/前置詞と定冠詞の融合形					事前：教科書該当部分の精読 事後：前置詞の用法確認		講義 60分 演習 30分		
3	前置詞の Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分		
4	分離動詞/非分離動詞					事前：教科書該当部分の精読 事後：分離・非分離の用法確認		講義 60分 演習 30分		
5	分離動詞/非分離動詞の Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分		
6	話法の助動詞					事前：教科書該当部分の精読 事後：話法の助動詞の用法確認		講義 60分 演習 30分		
7	従属の接続詞 ①					事前：教科書該当部分の精読 事後：従属の接続詞の用法確認		講義 60分 演習 30分		
8	話法の助動詞/従属の接続詞 ①の Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分		
9	zu 不定詞句					事前：教科書該当部分の精読 事後：zu 不定詞句の用法確認		講義 60分 演習 30分		
10	再帰代名詞と再帰動詞					事前：教科書該当部分の精読 事後：再帰の用法確認		講義 60分 演習 30分		
11	zu 不定詞句/再帰代名詞と再帰動詞の Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分		
12	動詞の3基本形/過去形/現在完了形					事前：教科書該当部分の精読 事後：動詞の3基本形の確認		講義 60分 演習 30分		
13	動詞の3基本形/過去形/現在完了形の Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分		
14	後期確認問題					事前：教科書該当部分の精読 事後：確認問題の再点検		講義 30分 演習 60分		
15	後期確認問題の解答と解説/定期試験対策					事前：確認問題の再点検 事後：定期試験対策準備学習		講義 30分 演習 60分		
教本：「ドイツ語Ⅰ」と同一であり、改めて購入する必要はない。 1. 『Deutsch mit Liebe』(朝日出版社) ¥2,860 2. 『初級者に優しい独和辞典 増補改訂版』(朝日出版社) ¥3,080					参考文献： 教本・辞典のほかは特に用いない。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験(100%)の成績による。										
学生へのアドバイス： 前期「ドイツ語Ⅰ」で獲得した知識を繰り返しブラッシュアップして、今後の学習へ有機的に結び付けてもらいたい。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	ドイ ツ 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (German Communication)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 澤 秀 嗣								
履 修 条 件	前 提 科 目	ドイ ツ 語 I と ドイ ツ 語 II の 両 科 目 を 既 修 し、両 科 目 の 単 位 を 修 得 済 み で あ る こ と が 望 ま し い。							
	そ の 他	初 級 レ ベ ル の ドイ ツ 語 文 法 に 習 熟 し、基 本 的 な 語 彙 (概 ね 700 語) を 有 し て い る こ と が 求 め ら れ る。							
授 業 概 要 :									
初 級 レ ベ ル の 文 法 ・ 語 彙 を も と に、ドイ ツ 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 を 涵 養 す る。語 学 学 習 で は 出 席 が 肝 要 で あ る。 定 刻 より 20 分 以 上 経 過 し た 遅 刻 は 欠 席 と 看 做 す。欠 席 が 5 回 に 達 し た 時 点 で 定 期 試 験 受 験 資 格 を 喪 い、「不 可」の 評 価 が 下 さ れ る。 な お 履 修 登 録 遅 滞 ・ 疾 病 ・ 葬 祭 ・ 実 習 ・ 対 外 試 合 ・ 就 職 活 動 等 を 含 む い か な る 欠 席 も 「公 欠」と は な ら ない。									
授 業 目 標 :									
初 級 レ ベ ル の ドイ ツ 語 に 熟 達 し、ドイ ツ 語 技 能 検 定 試 験 ・ 3 級 を 受 験 で き る レ ベ ル へ 到 達 す る こ と を 目 指 す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Lektion 0: Guten Morgen!					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
2	Lektion 1: Ich trinke gern Kaffee.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
3	Lektion 2: Das ist ein Bierkrug.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
4	Lektion 3: Ich kaufe einen Kopfhörer.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
5	Lektion 4: Das ist mein iPhone.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
6	Lektion 5: Ich kaufe drei Äpfel.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
7	Lektion 6: Ich schenke meinem Freund einen Schal.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
8	Lektion 7: Ich gehe in die Mensa.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
9	Lektion 8: Ich stehe um halb acht auf.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
10	Lektion 9: Ich will eine Reise machen.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
11	Lektion 10: Hast du schon dein Referat geschrieben?					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
12	Lektion 11: Ich habe ein sehr gutes Wörterbuch.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
13	Lektion 12: Wer ist fleißiger, Frank oder Werner?					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
14	Lektion 13: Das Geschäft wird um 7 Uhr geöffnet.					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
15	Lektion 14: Wenn ich mehr Geld hätte, ...					事 前 : 当 該 単 元 の 予 習 事 後 : 当 該 単 元 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『新 装 版 ・ 話 す ぞ ドイ ツ 語 ! Kommunikation NEU』(朝 日 出 版 社) ¥2,845					『初 級 者 に 優 い 独 和 辞 典 増 補 改 訂 版』(朝 日 出 版 社) ¥3,080				
ISBN : 978-4-255-254645					ISBN : 978-4-255-013435				
各 自、最 寄 り の 書 店 で 注 文 ま た は 出 版 社 サ イ ト (下 記 参 照) を 通 じ て 予 め テ キ ス ト					同 書 以 外 で も 構 わ ない が、辞 書 を 常 時 携 帯 す る こ と。				
を 購 入 し て お く こ と (不 所 持 の 者 に は 出 席 を 認 め ない) :									
https://text.asahipress.com/german/detail.php?id=1923									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
初 回 講 義 に は 必 ず 出 席 す る こ と。欠 席 者 に は 履 修 を 認 め ない (履 修 登 録 の 懈 怠 は 欠 席 の 理 由 と な ら ない)。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	統計学 (Statistics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	EXCEL が使用可能なノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、データ分析を専門とするデータサイエンティストという職種が着目されているが、統計学はデータサイエンティストだけでなく、一般のビジネスパーソンにとっても必要な基礎知識である。本講義では、統計学の基礎知識とサンプルデータによる演習課題を通してその活用法を学ぶ。									
授業目標： 統計学の基礎知識を学ぶことにより、データを分析・理解するための基礎能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、統計学の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	統計学で用いる用語、基本統計量					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
3	ヒストグラム、パレート図					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
4	分散と標準偏差 基準値と偏差値					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
5	相関分析					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
6	確率変数と期待値					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
7	確率変数と期待値 2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
8	正規分布					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
9	母集団と標本					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
10	区間推定－1					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
11	区間推定－2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
12	母平均の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
13	母分散・母比率の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
14	有意差検定－1－等平均仮説の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
15	有意差検定－2－母比率の有意差検定 まとめと活用事例					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
教本： 講義初回のガイダンスで指示する。					参考文献： 講義内で指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	統 計 学 (Statistics)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	BYOD で 使 用 す る ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と。							
授 業 概 要 :									
この授業では、データの整理・可視化、確率、推定、仮説検定、回帰分析など、将来ビジネスでも役立つ統計の基本手法を実践的に学びます。計算だけでなく、数値やグラフが示す意味を読み取り、データに基づいて判断する力を養います。マーケティングでも経営でも社会調査でも、どんな分野でも活用できる“データを見る目”を身につけることを目指します。									
授 業 目 標 :									
①データを整理し、適切な指標や図で特徴を説明できる。 ②基本的な確率・分布の考え方を理解し、計算ができる。 ③母平均・母比率の推定と検定を手順に沿って実行できる。 ④統計的な結論を「自分の言葉で」説明できる。 ⑤相関と回帰の基本的な読み取りができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 概 要 と 目 的、進 め 方、評 価 方 法 等 に つ い て 説 明 す る。 統 計 学 と は 何 か、統 計 デ ー タ の 活 用 事 例 を 紹 介 す る。					事 前：シラバスを読む 事 後：ミニッツペーパー		アイスブレイク (15分) 講 義 (75分)	
2	度 数 分 布 と ヒ ス と グ ラ ム に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) グ ル ー プ ワ ー ク (30分)	
3	デ ー タ の 中 心 を は か る 指 標 (算 術 平 均、メ ジ ア ン、モ ー ド、ト リ ム 平 均) に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
4	デ ー タ の 散 ら ば り を は か る 指 標 (四 分 位 範 囲、箱 ひ げ 図、分 散 と 標 準 偏 差、変 動 係 数、偏 差 値) に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
5	順 列 と 組 合 せ に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
6	確 率 と ベ イ ズ の 定 理 に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
7	確 率 変 数 と 確 率 分 布 に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 小 テ ス ト (30分)	
8	母 平 均 と 区 間 推 定 に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
9	母 比 率 の 区 間 推 定 に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
10	仮 説 検 定 (1) 母 平 均 の 検 定 に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
11	仮 説 検 定 (2) 母 比 率 ・ 母 平 均 の 差 ・ 母 比 率 の 差 の 検 定 に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
12	カ イ 2 乗 分 布、母 標 準 偏 差 の 区 間 推 定 と 検 定 に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
13	相 関 分 析 に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
14	回 帰 分 析 に つ い て 学 ぶ。					事 前：例題を読み、調べる 事 後：練習問題を解く		講 義 (60分) 演 習 (30分)	
15	試 験 と ま と め、学 び の 振 り 返 り を 行 う。					事 前：学びのマップ作成 事 後：学びの振り返りを行う		講 義 (40分) 試 験 (50分)	
教 本 :									
授 業 内 で 指 示 す る。					参 考 文 献 :				
					白 砂 堤 津 耶 『 例 題 で 学 ぶ 初 歩 か ら の 統 計 学 [第 2 版] 』 株 式 会 社 の 本 評 論 社 ISBN : 978-4-535-55790-1 そ の 他、必 要 に 応 じ て 授 業 内 で 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ (ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー、演 習 問 題、レ ポ ー ト 課 題、振 り 返 り 等) : 60%、小 テ ス ト : 10%、試 験 : 30% で 総 合 評 価 す る。 ※ 学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ は、ル ー ブ リ ッ ク (評 価 基 準) に よ る 自 己 評 価 を 含 む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
統 計 学 で 使 用 す る 統 計 ソ フ ト お よ び 生 成 AI の 活 用 に つ い て、初 回 講 義 日 に 説 明 す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	動 画 作 成 ・ メ デ ィ ア 配 信 技 術 (Video Production and Media Broadcasting Techniques)							科 目 分 類	専 門 科 目
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	教 室 に よ っ て は ノ ー ト パ ソ コ ン が 必 要 で あ る							
授 業 概 要 :									
動 画 制 作 と メ デ ィ ア 配 信 の 基 本 的 な 技 術 と 理 論、す な わ ち、映 像 の 撮 影、編 集、オ ー デ ィ オ 制 作、特 殊 効 果、脚 本 作 成、ラ イ ブ ス ト リ ー ミ ン グ、デ ジ タ ル 配 信、著 作 権 に か か わ る 技 術 と 理 論 に つ い て、講 義、演 習 を 通 じ て 学 ぶ。									
授 業 目 標 :									
1) 動 画 制 作 と 配 信 に 関 わ る 基 本 的 技 術 を 習 得 し て い る。									
2) 映 像 制 作 に 関 連 す る 理 論 と、著 作 権、ラ イ セ ン ス 等 の 問 題 を 説 明 で き る。									
3) こ れ ら を 統 合 し、映 像 作 品 を 制 作 し、デ ジ タ ル 配 信 で き る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導 入 : 動 画 制 作 と メ デ ィ ア 配 信 の 基 本 概 念					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
2	映 像 の 構 成 要 素 : フ レ ー ミ ン グ、コ ン ポ ジ シ ョ ン、ラ イ テ ィ ン グ					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
3	オ ー デ ィ オ 録 音 と 編 集 の 基 礎					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
4	編 集 ソ フ ト ウ ェ ア の 概 要 カ ッ ト、場 面 転 換、エ フ ェ ク ト					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
5	ス ト ー リ ー テ リ ン グ と 脚 本 : 映 像 に お け る 物 語 構 築					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
6	ア ニ メ ー シ ョ ン と モ ー シ ョ ン グ ラ フ ィ ッ ク ス					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
7	ラ イ ブ 配 信 の 基 本 : ス ト リ ー ミ ン グ ソ フ ト ウ ェ ア と 設 定					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
8	色 補 正 と グ レ ー デ ィ ン グ : 映 像 の ム ー ド と ス タ イ ル を 形 成 す る					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
9	Y o u T u b e 風 の カ ッ ト 編 集 1 無 音 部 分 や フ ィ ラ ー の 自 動 削 除					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
10	Y o u T u b e 風 の カ ッ ト 編 集 2 カ ッ ト の 間 合 い と テ ン ポ					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
11	Y o u T u b e 風 の カ ッ ト 編 集 3 タ イ ト ル に 凝 る					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
12	Y o u T u b e 風 の カ ッ ト 編 集 4 音 声 と B G M					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
13	S N S を 活 用 し た プ ロ モ ー シ ョ ン					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト の 作 成		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
14	配 信 プ ロ ジ ェ ク ト の 立 案 / 著 作 権 と ラ イ セ ン ス / 映 像 制 作 の 倫 理					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : プ ロ ジ ェ ク ト の 立 案		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
15	配 信 プ ロ ジ ェ ク ト 案 の 発 表					事 前 : 資 料 を 下 読 み す る 事 後 : フ ィ ー ド バ ッ ク		講 義 : 60 分 質 疑 応 答 : 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
適 宜、参 考 資 料 を 配 布。					授 業 中 に 適 宜 指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
3304 以 外 の 教 室 で 実 施 さ れ る 場 合、ノ ー ト パ ソ コ ン が 必 要 と な る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	読書と豊かな人間性 (Reading and Rich Humanity)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	横手 拓治								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代的関心を前提にさまざまなタイプの本を取り上げ、作品を具体的に読みながら、意見交換も交えて特徴をつかんでいく。教員は長年出版社に勤務し、また出版関係の著書もある。それらをふまえた関連講義も実施。アクティブ・ラーニング方式を適宜導入。									
授業目標： 書物には時代や社会を映す役割もある。本講義では多くの読者を得た本を中心に扱うが、それらの読解を通じて、人びとの関心を集めるものを把握し、社会的背景や人間のあり方に理解を深めていくことも、この授業の目標になる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイドランス。					事前：書店へ行き本に親しむ 事後：テキストに目を通す		講義60分、応答30分	
2	ノンフィクションを読む。					事前：対象に知識を増やす 事後：復習、関連作品を読む		講義と応答50分、 作品の読解40分	
3	心理学書を読む。					事前：対象に知識を増やす 事後：復習、関連作品を読む		講義と応答50分、 作品の読解40分	
4	実用書を読む。					事前：対象に知識を増やす 事後：復習、関連作品を読む		講義と応答50分、 作品の読解40分	
5	恋愛小説を読む。					事前：対象に知識を増やす 事後：復習、関連作品を読む		講義と応答50分、 作品の読解40分	
6	教養書(新書)を読む。					事前：対象に知識を増やす 事後：復習、関連作品を読む		講義と応答50分、 作品の読解40分	
7	ワークと発表①～書店で話題書を探す。					事前：発表の準備をする 事後：発表内容の整理と復習		発表45分、 講義と応答45分	
8	〔調整回〕本の制作・流通を知る、図書館で本を探す。					事前：対象に知識を増やす 事後：図書館を訪問する		講義60分、ワーク30分	
9	コミュニケーション術の本を読む。					事前：対象に知識を増やす 事後：復習、関連作品を読む		講義と応答50分、 作品の読解40分	
10	自己啓発書を読む。					事前：対象に知識を増やす 事後：復習、関連作品を読む		講義と応答50分、 作品の読解40分	
11	自然科学・理数系の本を読む。					事前：対象に知識を増やす 事後：復習、関連作品を読む		講義と応答50分、 作品の読解40分	
12	〔調整回〕学生選定作品の読み合わせ。					事前：対象に知識を増やす 事後：復習、関連作品を読む		講義と応答50分、 作品の読解40分	
13	ワークと発表②～SNSで話題書を探す。					事前：発表の準備をする 事後：発表内容の整理と復習		発表45分、 講義と応答45分	
14	同時代に広く読まれているものを読む。					事前：対象に知識を増やす 事後：復習、関連作品を読む		講義と応答50分、 作品の読解40分	
15	まとめと授業内課題					事前：全体の復習 事後：全体の再復習		講義50分、課題40分	
教本： なし。対象作品は授業において適宜示し、またコピーを配布する					参考文献： 『ベストセラー全史 現代篇』(澤村修治著、筑摩書房)。 *本書は教員の筆名著書である。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況・意見提示(40%)、授業時のレビュー(30%)、定期課題(30%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 取りあげる作家・作品については、図書館や書店、web情報等で知識を増やし、作品に触れておくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	特別の支援を必要とする幼児理解(障がい児保育) (Childcare of disabled children)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	荒木 光									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 障がいのある子どもの発達や特性を理解し、適切な支援方法を学ぶ。保育現場での対応力を身につけ、家族や周囲と協力しながらインクルーシブな保育を実践できる力を養う。										
授業目標： 1. 障がい児保育の理念と歴史を学び、基礎的な理解を深める。 2. 子どもの特性や発達に応じた援助・配慮を学ぶ。 3. 保育計画の立案や具体的な援助方法を理解する。 4. 家庭支援や関係機関との連携・協働について学ぶ。 5. 障がい児保育の現状と課題を理解する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎						○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	保育現場にいる障がいのある子ども					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 討議30分		
2	乳幼児期の発達課題と障がい特性①（愛着形成・運動発達）					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 討議30分		
3	乳幼児期の発達課題と障がい特性②（基本的な生活習慣と言語の発達）					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 討議30分		
4	障がい児保育の仕組み①（歴史・制度）					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 討議30分		
5	障がい児保育の仕組み②（ライフコース）					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 討議30分		
6	知的障がいのある幼児の特徴と支援					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 討議30分		
7	自閉症スペクトラム障がいのある幼児の特徴と支援					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 討議30分		
8	注意欠如・多動性障がいのある幼児の特徴と支援					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 討議30分		
9	学習障がいのある幼児の特徴と支援					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 討議30分		
10	視覚障がいのある幼児の特徴と支援					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 討議30分		
11	聴覚障がいのある幼児の特徴と支援					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 討議30分		
12	肢体不自由のある幼児の特徴と支援					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 討議30分		
13	インクルーシブ教育					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 討議30分		
14	保育所・幼稚園での支援体制					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 討議30分		
15	家族への支援					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 討議30分		
教本： 「よくわかる障害児保育 [第2版]」 ミネルヴァ書房 ￥2,500					参考文献： 授業中に随時紹介する。					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 障がい児保育は、子どもの個性や発達を理解し支える大切な学びです。最初は難しく感じるかもしれませんが、基本を押さえながら理解を深めてください。一人ひとりの笑顔を引き出せる保育士を目指し、前向きな姿勢で授業に参加することを期待しています。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										